特115
841

通信教授 音樂講義錄分科

通信教授 尺八講義錄

第參編

大日本家庭音樂會編纂

始

●尺八に於て俗に首振り三年と云ふは首の振り加減にて種々美妙の調律を出すに三年以上を要する事を云へるものなり。然るに本會專賣の尺八調子笛を利用するときは僅々三ヶ月以内にて種々の正確なる調律を自在に發する事を得べしされば速に尺八に上達せんとする人は必ず備へられよ

東京音樂學校教授
山口菊次郎先生賞賛

新案特許

尺八調子笛

定價 〔乙音尺八調子笛 壹圓五拾錢
〔甲音尺八調子笛 壹圓五拾錢
以上甲乙調子笛一組定價參圓送料拾參錢
尚特音附甲乙調子笛定價參圓參拾錢とす
（郵税各拾參錢を要す）

「備考」 全く音樂の素養なき人は。乙音甲音の二組を必要とす又多少音律を理解する人は。乙音一組にても可なり。
詳細使用法は講義録に説明しあり

發賣所（本部） 福岡市中島町十番地 大日本家庭音樂會 振替口座福岡五五〇〇番 電話本局一五四四（イゴヨシ）番 福岡郵便局私書函第十三號

取次所（支部） 東京市神田須田町一番地 大日本家庭音樂會東京支部 電話本局五五九七番 振替口座東京二七八〇〇番

取次所（支部） 大阪市東區心齋橋筋南久太郎町四丁目角 大日本家庭音樂會大阪支部 振替口座大阪六一七七番

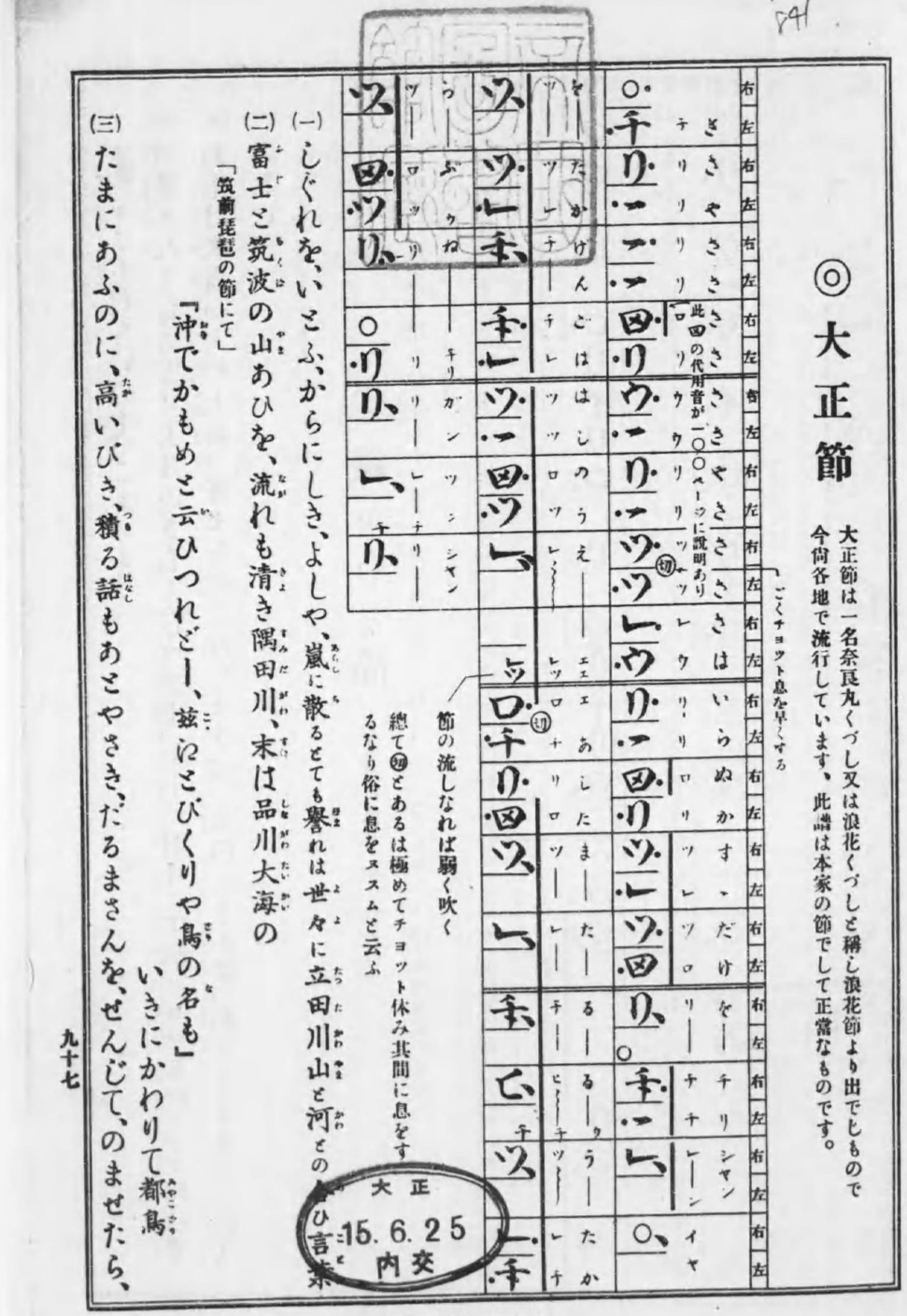
◎大正節

大正節は一名奈良丸くづし又は浪花くづしと稱し浪花節より出でしもので今尚各地で流行しています、此譜は本家の節でして正當なものです。

ごくチョット息を早くする

節の流しなれば弱く吹く

總て(切)とあるは極めてチョット休み其間に息をするなり俗に息をヌスムと云ふ



(一) しぐれを、いとふ、からにしき、よしや、嵐に散るとても譽れは世々に立田川山と河との

(二) 富士と筑波の山あひを、流れも清き隅田川、末は品川大海の

「筑前琵琶の節にて」

「沖でかもめと云ひつれどー、茲にとびくりや鳥の名も」

いきにかわりて都鳥

(三) たまにあふのに、高いびき、積る話もあとやさき、だるまさんを、せんじて、のませたら、

大正 15.6.25 内交 ひ言案

尺3 P 14 9 N748.

コイツアまたれないので、こまります、

(四) 伯爵夫人となるよりも月のさしこむ四疊半、ぬしは明日の下調べ、わたしや御そばで針仕事

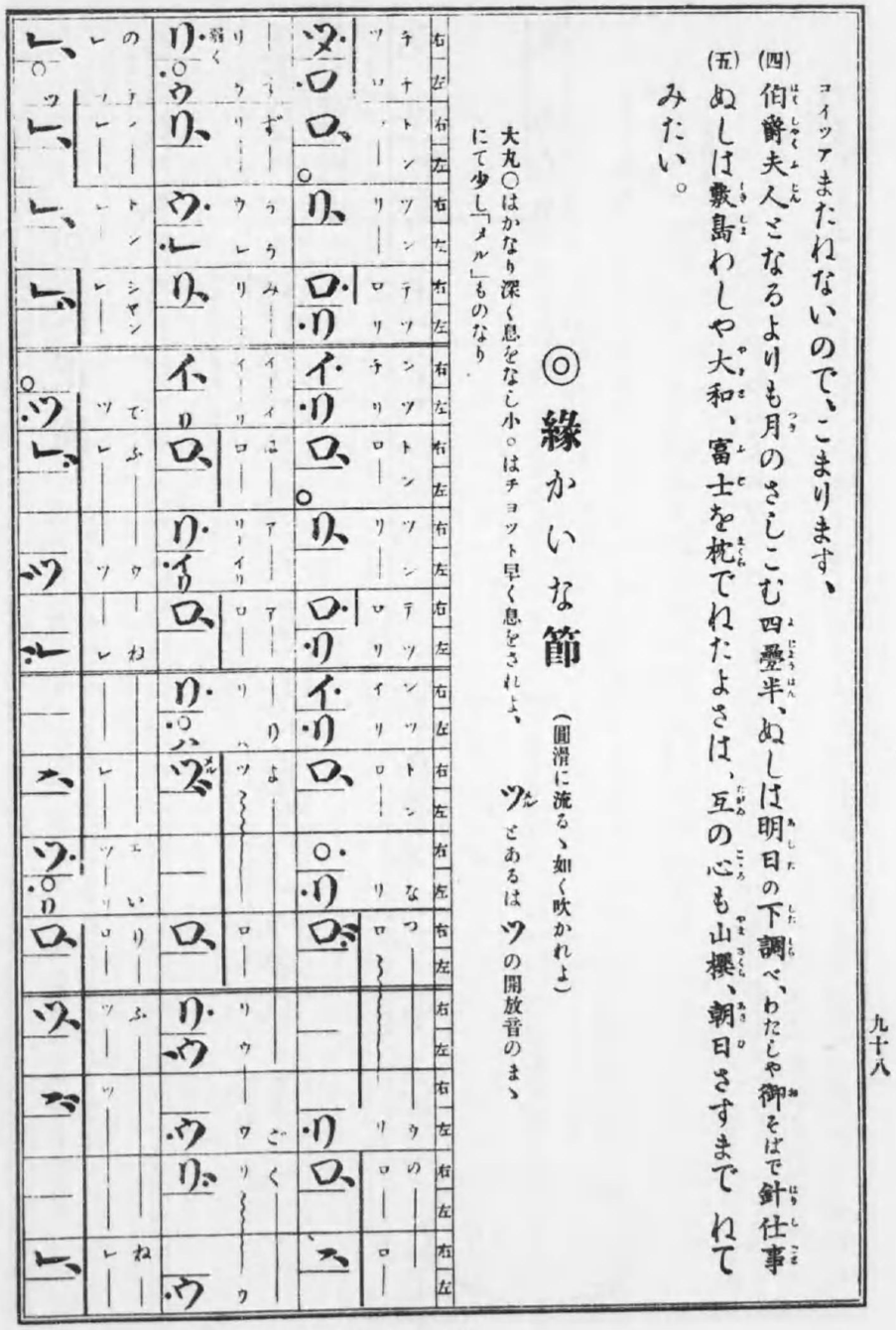
(五) ぬしは數島わしや大和、富士を枕でれたよさは、互の心も山櫻、朝日さすまでれて

みたい。

◎ 縁かいな節

（圓滑に流るゝ如く吹かれよ）

大九〇はかなり深く息をなし小。はチョット早く息をされよ、　ツんとあるはツの開放音のまゝにて少し「メル」ものなり



(一) 春の夕の手まくらに、しつぽりと降る軒の雨、ぬれてほころぶ山櫻花がむすぶの縁かいな、

(二) 夏の凉みは兩國の出舟入舟、屋形舟、上る流星、ほしくだる玉屋がとりもつ縁かいな、

(三) 秋の夜ながにしつぽりと好いた同士のさしむかひ、はれてさしこむ、ねやの内月がとりもつ縁かいな、

(四) 冬のさむさに置ごたつ、ちわがこうして、せなあわせ、ふとんが戀の、なかだちで雪がとりもつ縁かいな、

◎二上り新内（正調）

三味一 二 三
尺八リ ㇾ リ

◎二上り新内は追分節の如く頗る悲哀的に吹かねばいけませぬ、そして此二上り新内は人々により大に節廻しが違ひます、然し茲に採用しましたのは標準的の正調でありますから、充分確信を以て吹きなさい

◎ハは㇀ロ のハ○○●○● 即二四五のハをメッて出すのです、此ハは四即ロのメリの代用音です、即ち四もハも同音ですが四よりハの方が吹き易く且つ音もユリ易いから此方を場合により使用する方が都合がよいのです。尚春雨等の四の代りにハを代用して吹いて御覽なさい。

右左右左右左

◎追分節に就て

一体尺八にて追分を吹く可否に就ては第一編四ページ尺八音の特長の所で申しましたから今一度反復して讀んで下さい。

追分節は北海道地方は勿論幽舘及新潟等にて大に行われ就中江差を以て本場所とします、此追分節の歌ひ方は人々により節まわし及拍子等大に違ひますが本書音譜は前記江差の節を採用しました、又尺八で追分を吹くに多くの人は尺八に都合よき樣出たらめを吹く樣ですが、それでは歌が唄われません、されば本書音譜は「チャン」と歌が唄ひる樣に作譜してありますから是れによりて歌と、兩方研究さる、時は興味一層深くなります、此歌の起源は「いとし良人が漁船に乘り漁業の爲遠征するを其戀女房が途中まで見送る時に櫓を漕ぎながら歌ふ送別の歌」と云ふ事です、されば、やるせなき斷腸の想ひを泣いて唄ひし涙の聲でありますから充分悲しみを帶び所謂怨み綿々として餘韻嫋々たる如く吹かねばいけませぬ又三味線に合して追分節を歌ふ時は三味線は波の音を聯想せしむる爲只「トーントテーン」と同じ事を反復しをりまして其波の響につれて歌ふのです、

「忍路高島おびもないが、せめて歌棄磯谷まで」　此忍路高島も亦歌棄磯谷も北海道後志の國の地名です、即忍路高島迄はどても見送つては行けない

がせめて歌棄、磯谷、迄見送ませうと云ふ意味です。

◎追分節の特種手法

一二〜〜〜及三四〜〜〜等に就ては八十ページに説明してありますから反復してよく讀んで而してよく練習して下さい、

茲にては追分特有の手法として「モミ手」と稱するのがありますから今それを説明しませう。

先づ初めは「ヒ」即●○○○●を息の續く限り長く「ヒ――――」と高い音を吹いてごらんなさい、今其續いておる音の間に人差指にて四の孔を人が普通走る足音位の速度にて絶ゑず打つてごらんなさい、つまり此時の發音は「チヒ〜〜〜〜〜〜」となります、此「チヒ〜〜〜〜」を先づ充分指が動く樣に練習なさい。

それが出來たら今度は此「チヒ〜〜〜〜〜」の「ヒ」の次ぎ否殆んど「ヒ」と同時に「イ」の孔即裏孔の五を拇指にて押ゑてごらんなさい、結局五の孔をユリ動すのです、此樣にしますと恰も人差指と拇指にて尺八を「モム形」となります、それで「モミ手」と云ふのです、只指の方向が普通肩や腰をモム形と違ひます即人差指は上の方にスリ上げる樣な形となり拇指は、下方に少しスリ下げの形となります、此發音を譜に書けば止を得ず、「チヒイ〜〜〜〜〜〜」と書きますが「チヒイ〜〜〜〜〜〜」と音が明かにカドダチません即「チヒイ〜〜〜〜〜〜」が恰も盤上玉を轉がす如く圓滑

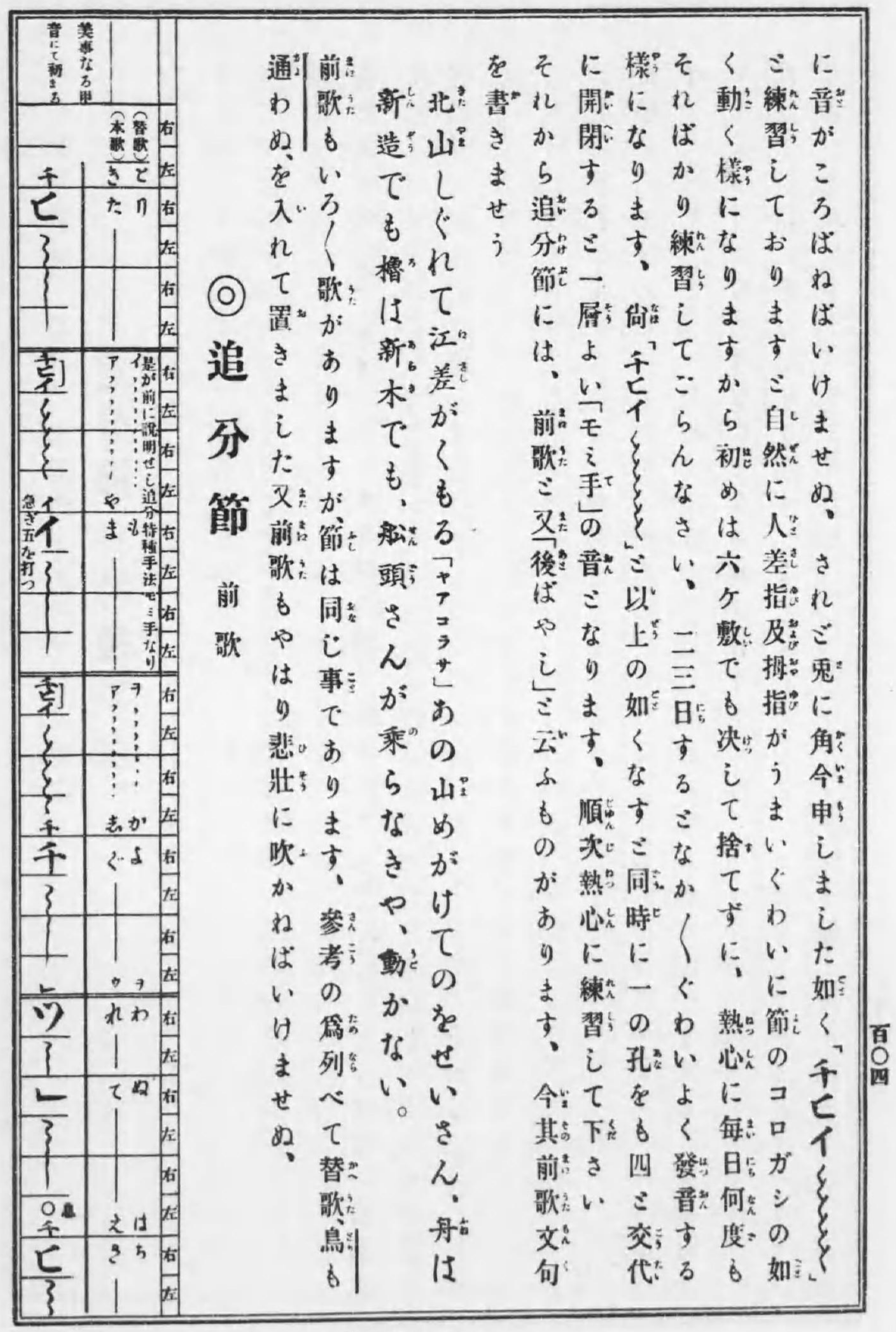
に音がころばねばいけませぬ、されど兎に角今申しました如く「チヒイ〜〜〜〜」と練習しておりますと自然に人差指及拇指がうまいぐわいに節のコロガシの如く動く樣になりますから初めは六ケ敷でも決して捨てずに、熱心に毎日何度もそればかり練習してごらんなさい、二三日するとなか〳〵ぐわいよく發音する樣になります、尙「チヒイ〜〜〜〜」と以上の如くなすと同時に一の孔をも四と交代に開閉すると一層よい「モミ手」の音となります、順次熱心に練習して下さいそれから追分節には、前歌と又「後ばやし」と云ふものがあります、今其前歌文句を書きませう

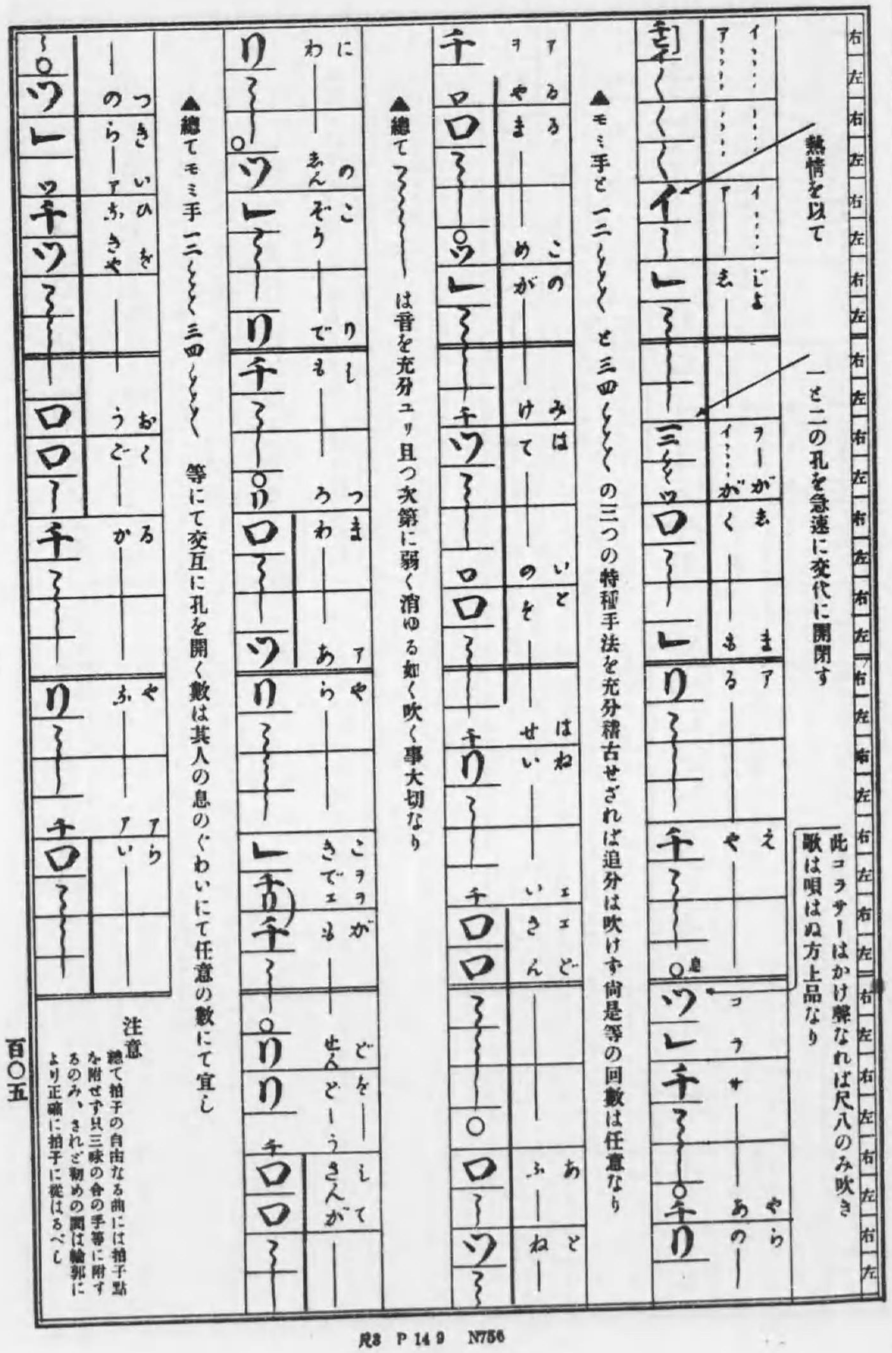
◎追分節

前歌

北山しぐれて江差がくもる「ヤアコラサ」あの山めがけてのをせいさん、舟は新造でも櫓は新木でも、船頭さんが乘らなきや、動かない。

前歌もいろ〳〵歌がありますが、節は同じ事であります、參考の爲列べて替歌、鳥も通わぬ、を入れて置きました又前歌もやはり悲壯に吹かねばいけませぬ、





◎追分節本歌

（追分節はやるせなき斷腸の想ひを泣いて歌ひし涙の聲なれば極めて悲哀に極めて滑かに而して强弱に充分注意し靜かに巧みに吹かれよ）

（備考）歌ひ初めを調子を異にし「おかしよ――ヲヲ――」「千ア〜――」ア〜〜千「ロ〜〜ヲ――ヲヲ――ヲ……ヲ――」「ロ〜〜ヲ」〜〜〜ヲ〜〜ヲ――ヲヲ――ヲ……ヲ――」「二〜〜ロ〜〜リ〜〜」と初むる人あり、「たかしま」より先は全じなり、尚くわしき事は後編追分節の研究に說明す、これは追分節に於て各地さまゝの節を譜記し比較研究し別に一冊させしものなり、今茲には其内尺八に最も適當したる節を取りたり、

▲初めは息が、つゞかぬも、なれるに從ひ容易となる、尙なれるに從ひ出來得る限り息を永くし充分趣味ある樣に吹かれよ▼

二四五のハの乙なメリ、悲しそうになる發音にて靜かに初まる

きわだゝぬ樣弱く押す

一と二の孔を交代に早く開閉す

次第に弱く消えるが如く

〜〜〜の如きは總て七十三頁に說明しある音のゆり方(3)の如く次第に消ゆるが如く恰も深き〳〵海底に人の心を漸次引き込む樣に悲しく靜かに吹かれよ

强に復す恰も水中のものが浮び上る樣に

これが前に說明せし追分特種手法モミ手なり

節まわしなれば弱く圓滑に

强復

一と二の孔を開き其孔五を閉ぢたるまゝ三と四を急速交代に開閉す

モミ手

美事なる甲音に血を吐くが如く

此所にて充分肺に空氣を入れ、次の甲音にて熱情ほとばしつて血を吐くが如く慎み緩々なる心地にて吹かれよ

尙此所は樂曲の中心なれば充分謹習し美事に吹かれよ

節まわしなれば次第に弱く圓滑に消えるが如く

此リは息のあまりなれば極めて弱く

モミ手

北海道は「す」を「し」と云ふ

◎追分、あとばやし

○追分節の後ばやしは種々の歌又はカケ聲をなす人あれ共、やはり歌はなくして一種の「はやし」とする方上品なり

右 左 右 左 右 左 右 左 右 左 右 左 右 左 右 左 右 左 右 左 右 左 右 左 右 左 右 左 右 左 右 左 右 左 右 左 右 左

◎追分節歌詞

（多數あれ共よきものゝみ記載す）

(一) 恐路高島およびもないが、せめて歌棄磯谷まで
(二) 帶も十勝で其まゝ根室、おつる涙の幌泉
(三) 大島小島のあい通る船は、江差通ひかなつかしや
(四) 西は追分東は關所、せめて關所の茶屋までも（又ハ下句 淺間山から御日がさす）
(五) 鳥も通わぬハ丈ケ島に

「新内」（『　』）の間は追分節でなく、新内の節にて唄ふのです、つまり追分節の間に新内がはいるのです

『やらるゝ此身はいとはれど（此新内の代りに、前の二上り新内のわるどめより、ないじやなし、迄の節を應用するも可なり）
あとに殘りし妻や子は』
（追分節に復す）どうして月日をおくるやら、
(六) 櫓も櫂も波に取られて身は捨小舟、どこへ取りつく島もない、
(七) 波の音、聞くがいやさに、山家に住めば又も聞ゆる鹿の聲、

◎鶴の聲

此曲は目出度曲でありまして前の黑髪と等しく一般に好まるゝ曲であります、
三味は本調子でありますから三味の一の糸と尺八「ㄴロ」と合します、琴は平調子
でありますから琴の一と尺八の「ㄴ」と合せばよいのです、

◎鶴の聲

以下二倍に延ばる人あり

◎六段に就て

○六段は筑紫箏曲中に輪舌と稱し歌詞なくして陰陽即裏表の二曲ありまして是を同時に合奏して神前に供へる事としてありました、此輪舌を根本として作曲し一段二段等となし六段を以て一曲とし當流琴曲の表組の内に加ねたのが今の六段の調であります、されば六段には生田流とか山田流とかの區別はありません山田流に前歌を附けたのは近頃の作です、

○別に雲井六段と云ふのがあります、それは此六段の替手でありまして前に述べた陰陽になぞらへたもので合奏する時はなか〳〵面白いです

○一説に六段の原曲は彼の有名な萬里の長城のほとり騎馬武者の轡の音を音樂に現はしたもので、別に「みだれ」と云ふ曲がありますがそれは戰擊の模樣を現したものと云ふ事であります、

○此六段の曲は初めは極めて靜かに吹かねばいけませぬ而して三段より漸次早く四段五段が最も早く六段の中頃より漸次徐となり終る事が大切です

三絃と合奏するには尺八の「ロ」と三味の一と合せます、又琴と合奏するには尺八の「ト」と琴の一の糸と合せます琴の平調子と尺八譜と對照しますと、

琴	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	斗	爲	巾
尺八	ト	リ	ロ	ヌ	ト	ウ	リ	ロ	ヌ	ト	チ	ヒ	イ

尙琴曲に就て詳細を知らんと欲せらるゝ人は本會發行の琴曲樂譜を見て下さい本會發行の琴曲樂譜は尺八音譜と連絡がとつてありますから、一見せらるゝ時は琴のぐわいが直にわかります、又尺八と合奏の際琴をひく人が拍子等を正確にひかねば合ひません、(うそをひいては合ふ道理がありません) それで尺八吹奏者は拍子を知らざる一般彈琴者に正確なる拍子のとり方を敎ゑて之を指導して行かねば琴曲界も向上發達しません尙琴の譜本に就ては本書末尾に「すぐわかる琴の譜本」として記載してありますからよく見て下さい、

●「ナヤシ」の吹き方

六段の初めの「或はに、」に「ト〜ヨロ」とあります「〜」は此前一寸説明しましたがこれは要するに、「ト〜ヨロ」と吹いてはカド立つからそれをカド立たぬ樣吹くのです

之を圖示しますと

既後にて一度「メリ」を入れまた元の位置に戻を復す
即「メリ」にて二音を淋らかに區別するのであります

◉六段等總て琴曲を吹くには威嚴ある吹方をなし安りに「ユリ音」に於て腮の横ぶりをやってはいけませぬ、即音のユリは總て「たてぶりにてなし」又發音も雄大に其奏者の人格を表わし人をして襟を正さしむる樣吹かねばいけませぬ

六段の調

初段

初めは極めて靜かに吹かれよ
凡一分間六十拍子とす

此假名は琴の言葉記號なり

彈琴者此「エン」の拍子なぬかす人ありそれは誤りに付教へられよ

乙の〇な美事に出きれよ

大丸〇は息を充分になし
小丸〇は息を早く一すする

りの横にしあるはりよりイに スリ上げて次のレに移る

此リ〇な只〇と吹く人あり

是より初段の終り迄二段と合奏し書た面白し

りからイに自然に音を上げる 即りを吹き裏五を急に開かず靜かにスリ開けばよし

之は〇レと初めツな吹き音をつゞけたるまゝ二の孔を次第にスリ開けまして音をスリ上げて次のレに行くのです

りの如く字の下にもあるはりを吹きて其終らんとする時五の孔を少しあけて音をシリ上りの音となるのです但音をカド立たぬ樣にせねばいけませぬ

◎初段が美事に吹けたら二段以下は大にやすいですから初段を充分反複且正確に練習して下さい

メラぬ人あるもメラぬ時は琴の九の糸と合はす

「此琴の「チ」と云ふ音の間に尺八は前のレをつゞけておるに御注意

ルは何處でも常に一の孔な一寸打つのです

「レ、なレ〇としやれる人あり

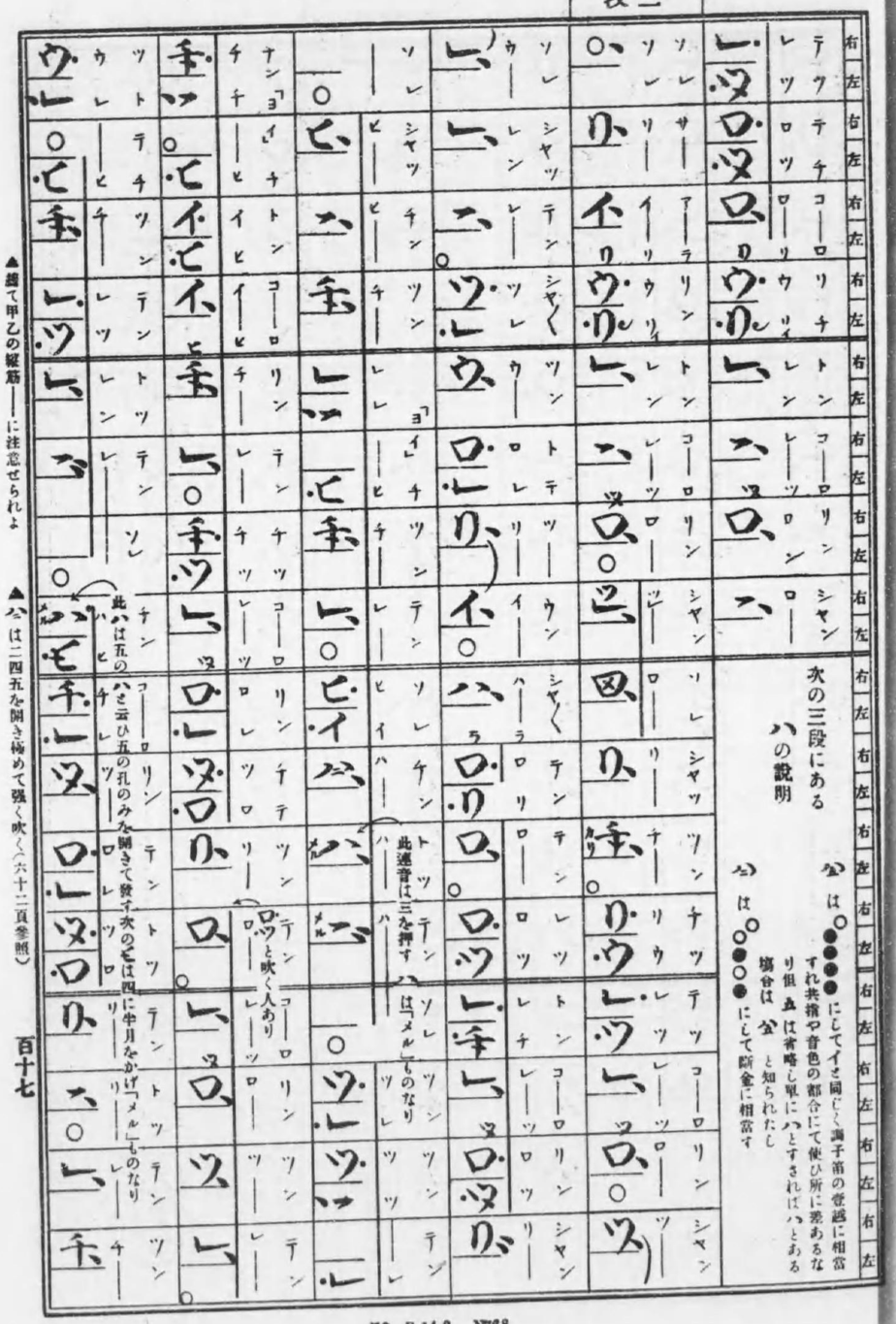
一般にツのメリ即ツをよくメラぬ傾ある故注意せよ

〔總て譜な晴況し少行の際等に足拍子に合せ譜な歌ひ得る樣練習すれば上途頗る速かなり

二段

尺3 P 14 9 N767

三段



尺3 P 14 9 N768

▲線て甲乙の縦筋——に注意せられよ

▲公は二四五を開き極めて強く吹く（六十二頁參照）

段四

これは「ツ」と次の四段の「レ」に續くのです而して「ノ」の記號あるときは「ツより」に移る時に「レ」の穴を念に開かず次第にスリ上げて開くのです、即音が次第上り音となるのであります

ハ、ヒ の説明　ハ即ち五の「ハ」は五の穴のみを開いてメルのですが「ヒ」はヒのメリですから四を中月にしてメルのです、依て「イ、ヒ」とするより「ハ、ヒ」の方が都合がよいです

段五

總て琴と交代に奏する所を「カケ合ヒ」と云ふ「カケ合」はとかく、あはてるものなれば極めて落ついて吹かれよ

尺八のみ二人連奏の時は一人は琴のかはりを吹くとよし

六段

尺八二拍子休止

ロの説明

とは甲音のみにてヒを出す前に一寸入れるのです

即●●○●●の如く三の穴を開き強く吹きます

此説明は次にあり

尺3 P 14 9 N771

終

▲(ノビル)とは凡そ二倍の拍子位にのばすものなり

合奏の時は互の氣合にてのばす、

▲總て合奏の際はあはてぬ樣心を落ち付けて吹奏せらるべし

○〰〰〰〰 即ユリ音は一通り出來上りし上にて適宜入れらるべし、但下品なる「ユリ」をなす可からず

○總て初心者は充分反復練習してコセ〳〵と吹かず、大なる音を出す事を勉められよ、これ初めは先づ肺を強大にせんが爲なり、

尺八に於ける肺はオールガンに於ける鞴の如し、先づ之を強大となさざる可からず

○肺を強大になすには早朝東天に向ひ約五分間端座瞑目して筒音即ロ音を深呼吸的に靜かに吹かれよ

尺3 P 14 9 N772

◎千鳥の曲

名古屋 吉澤檢校作曲

古今調子 古今組之一

しほの山さし出の磯に住む千鳥
君が御代をば八千代とぞなく
淡路島通ふ千鳥の啼くこゑに
幾夜寢ざめぬ須磨の關もり

◎此曲は名古屋吉澤檢校作古今組の一にして其内の最も多く彈奏さるゝものなり古今組とは春夏秋冬四曲、初瀨川唐衣、新雪月花と千鳥の曲等なり　此歌詞皆同調子にして古今集より出たる歌故に古今組古今調子の名あり

◎此曲の趣味を解する時は自ら磯邊に立ちたる心地すべし、前彈之處豊かに波の靜かに打寄するが如く手事に至れば千鳥のなぎさに飛びさまよう有樣又鳴く聲の其模樣迄巧みに現はしたるなど邦曲中稀なる名曲なり、從て作曲者の技倆又苦心の程察するに餘有りされば吹奏する人は其心して無暗に早く吹く可からず

◎吹奏して趣味多き故自ら流行の域に達し中にも日露戰爭當時仁川沖の戰ひに我艦隊淺間艦長八代大佐は鬪戰間近くなるや常に愛せる秘藏の尺八を取り出し此曲を「しはーのーやーまー」と吹き初め進んで「君が御代をば八千代とぞなく」の處にて敵艦見ゆとの報に接し尙悠々と吹き終りたりと此時の海戰遂に大勝利となりたれば其時より八代大佐を風流大佐と稱え世に知れ渡ると共に千鳥の曲の如何なるものなるかと憧がるゝもの多く是より愈々流行となれり「因に記す此時の風流大佐こそ先に海軍大臣たりし現八代大將なり」（尙第一編に此八代大將が當

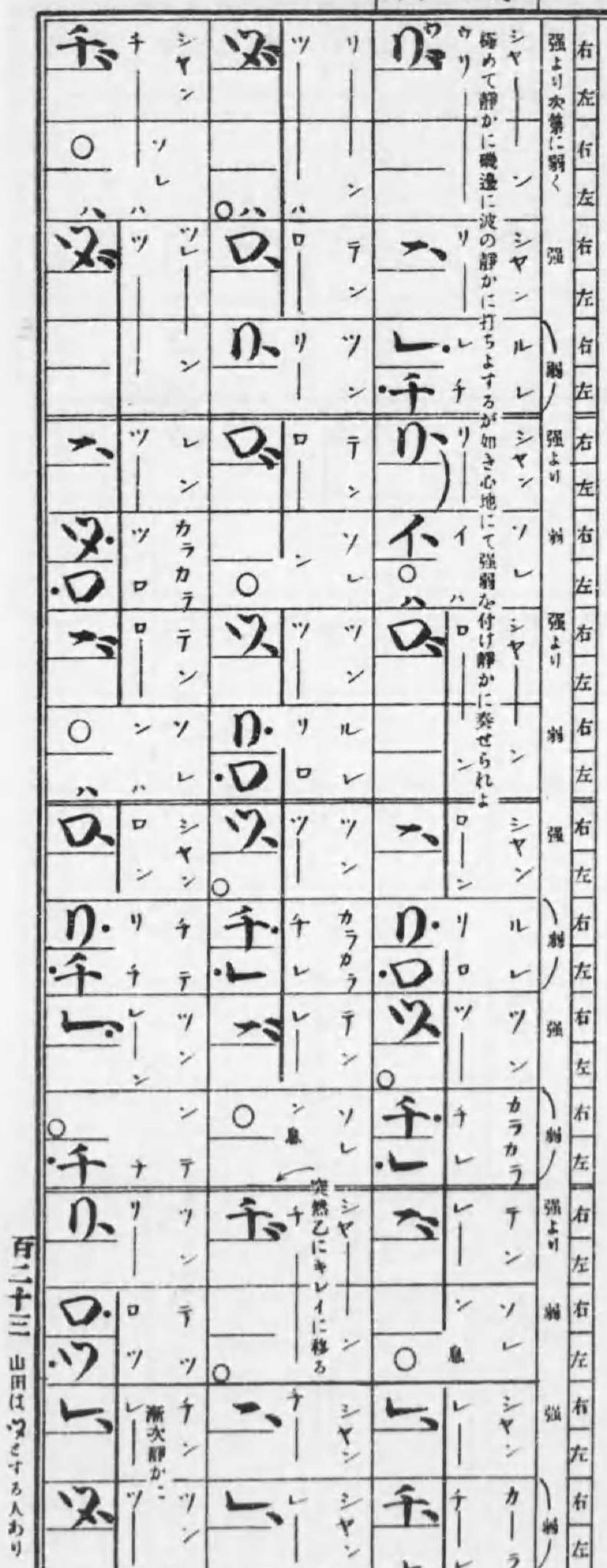
時を追想して特に本會の爲に揮毫せられた書がありますからよく見て下さい

▲琴と合奏するには六段と違ひまして尺八のロと琴の第一絃と合します、尙琴の古今調子と尺八譜と對照しますと次の樣になります、

琴	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	斗	爲	巾
尺八	ロ	レ	チ	リ	ロ	ヌ	レ	チ	リ	ロ	ヌ	レ	チ

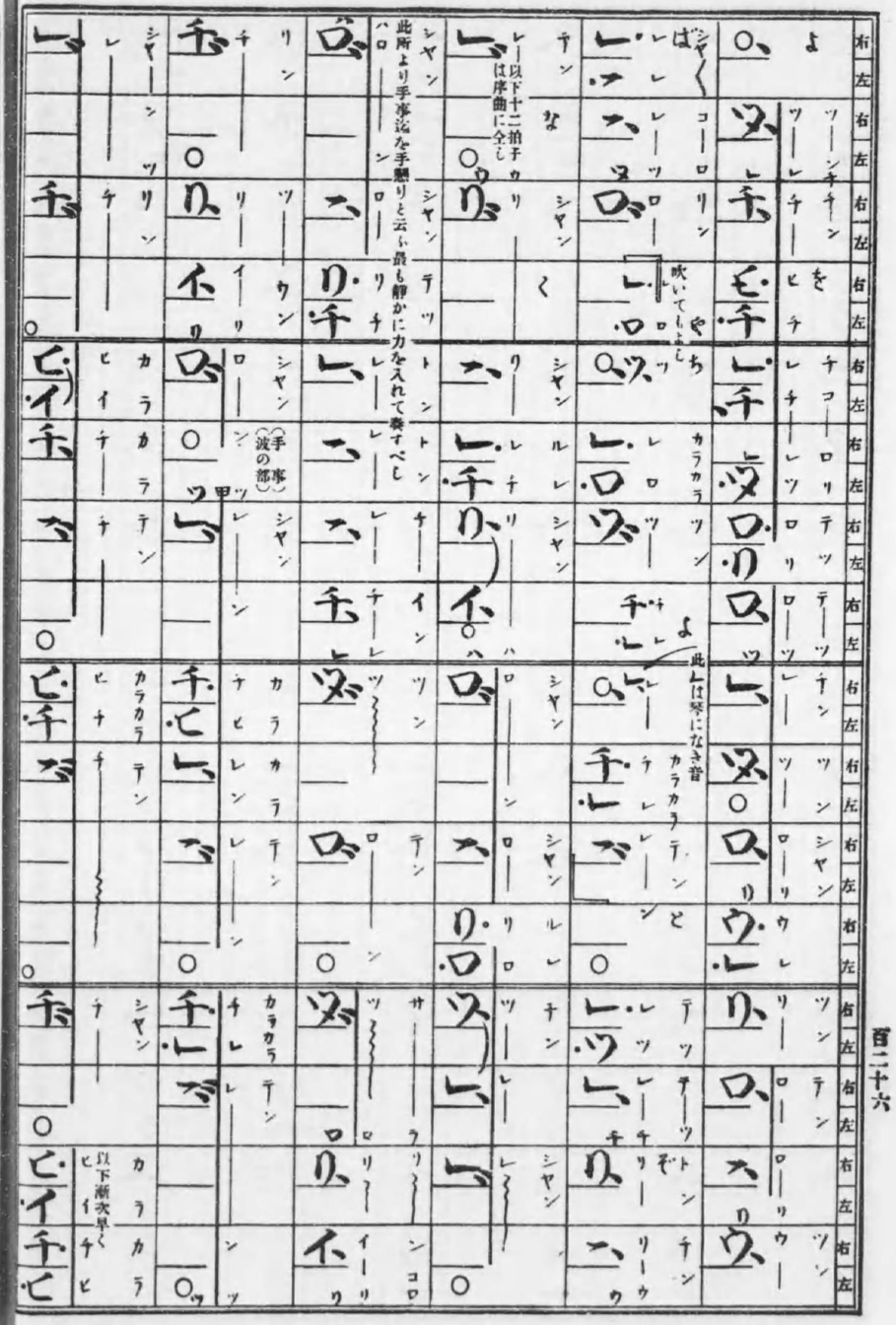
琴の糸の音の配列は一二絃を除く外順次高音となつておるのですが尺八と調子を合し易き樣右の如くしました、尙、琴に就て詳細を知らんと欲せらるゝ人は本書終りに廣告しある尺八譜に連絡ある本會琴曲樂譜を見て下さい、尙尺八吹奏に當り心得べきは音の强弱であります、例えば岸打つ波の音汽車の走る機關の音さては南無妙法蓮華經の大皷の音等是等は皆音の交互に强弱があつて妙味があります、されば此曲も巧みに强弱を付けて吹かねばいけませぬ先づ初め一行丈け其强弱を書いて見ませう。

序曲



山田は ヌとする人あり

右 シャン ま シャン シャン シャン


右 左
よ
ツーンチーン
ツーレ チー を
ヒ チ
シャく コーロリン
レ レ ツ ロー
ば
吹いてもよし
テン な シャン く
レー以下十二拍子ウリは序曲に全し
シャン テツ
シャン
此所より手事迄を手懸りと云い最も静かに力を入れて奏すべし
ハロー ン ロー リチ
シャン
リン
チー
ツ リン
リー ウン
イー リ
シーン ツリン
シー
レー
チコ ロリ テツ
レチ レツ ロリ
ちゃ
シャン リ シャン
レ チ リ シャン
ツ レ ツン
カラカラ
シャン
ロー
手事
波の部
カラカラ
チー
シャン
ツ ツ
ツ
シャン
レー
チー
よ
此レは琴になき音
カラカラテンと
テレレー ン
テン ツン
ツー ツン シャン
ロー リウ レ
ツン
リー
テツ チー ツ
レー チ リー ツ
ツ
ツン
ロー テン
ロー ヒ レン シャン
ツン
ツー
ロー リウ ー
カラカラ
ヒ レン
カラカラ テン
チー
テン
シャン ル レ
ロー ン ロー ン
シャン
ロー
ロー ン
シャン
ツ サー ウリ
ロリ
ン コロ
イー リ
カラカラ
チ レ
テン
レー
ツ
シャン
チー
カラ
貝下漸次早く
ヒ イ
カラ
チ ヒ
カラ
ン
ツ
ツン
ロー リウ ー
ツン
ツン
ロー テン
ツ ツ
ツ
ツン
ツ
ツン
ツ
ツ
ツ

ホ
ニ
ハ
ロ
本手
替手
本手
替手
本手
替手
本手
替手ハより直ちに拔れ
次の替手は千鳥の鳴き聲を聯想せしむる爲の替手なり左側の本手及琴の手と對照して上手に吹く時は顧る面白きものなり
琴と合奏する時は琴の手を中心とし琴の手を知らずしては合奏は出來ません
コロ〳〵〳〵は比較的急速なる連音なり
替手
千鳥の鳴き聲
即イのメリより漸次的にカリ腮の音の位置に復さし時、一と二との穴を交互急速にコロ〳〵〳〵〳〵

右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左	右	左
ロ、	ロ—	リ・	リロ	ロ・	ツ—	ウ—	ン—	ン—	シヤ—	レ—	ン—	○、		終	

テンツキツ

スリ上げ

本手替手は本手は本手のみを吹き替手は替手のみを吹くのです例へば終歌より上のイロハ順に吹きますと本手のみを吹く人はイ、ロ、ハ、ニ、ホ、ヘ、ト、の行を吹き替手を吹く人はイ、ロよりハの○の所より右の替手即「は行」に移り次に「に行」を吹き、それよりホ、ヘ、トとなり本手と同じくなるのです

●美音の極意及如何ぜば美事に吹奏し得るや

先づ美音を發する條件を列記してみますと、

◉第一に正確なる調律を出す事であります、如何に大なる音を出しても正確なる調律の音を出さねば決して美音とはなりませぬ、此前も申しました如く尺八は音の變化を殆ど腮の加減で調整して出すのですから　餘程音樂的の耳が發達せぬと正確なる調律が出ませぬ、音樂的に耳を發達せしむるには前の練習曲にありました様な簡單なる唱歌（それは學校等にて習得し自己が充分調子の高低を感得しておる曲）を美事に正確なる調子で吹く事を充分練習するが最も近道であります、又調律の比較として絶にず自己の發音を尺八調子笛と比較して具躰的に「メリ」「カリ」の工合を理解すると云ふ事も重大なる要件であります。

◉第二に上等なる尺八を持つ事です諺に學者筆を擇ばずと云ひますが尺八ばかりは、此様なわけにゆきません、粗惡なる尺八では如何に名人でも充分吹奏

する事は出來ません、されば多少尺八の趣味を解し自己の娯樂として或程度研究せんとする人は出來得る限り上等の品を求むるが得策であります

（備考）初歩時代の練習用ならともかくも、かなり吹ける樣になつてから求むる一人前の尺八はどをしても拾圓以上の品でなくては適當でありません普通は先づ貳拾圓位の品なれば上等です、それ以上になると漸次名竹となります、今左に本會樂器部にて取扱ふ、尺八名製作家秋月氏の作になれる　特製尺八定價表を拔萃しませう

（長さは一尺八寸を標準とす他の長さは指定を要す）

並製第七號	五圓	特製第一號	拾貳圓	特製第六號	參拾圓
並製第八號	八圓	特製第二號	拾五圓	特製第七號	參拾五圓
並製第九號	九圓	特製第三號	拾八圓	特製第八號	四拾圓
並製第十號	拾圓	特製第四號	貳拾圓	特製第九號	四拾五圓
		特製第五號	貳拾五圓	特製第十號	五拾圓

（以上今迄の定價表の如し）

素人はこんな高價な尺八がどをしてあるだろー、純金でも用ひてあるのかと不思議に思ひますが然し名竹は決してそんなわけで高いのではありません、實に尺八製作家は何百本の内より漸く一本の名竹を見出し且それを完全に仕上げるには一ケ年も二ケ年も苦心してヤット作り上げるのです、これらは其道に入つた人でなければなかなかわかりません

◉第三に調律が正確であつても發音が貧弱なる音であつては物になりませぬ、發音は雄大に圓滑に所謂餘裕ある吹き方をせねばいけませぬ、側で聞いておつて如何にも苦しそうな吹き方をする人がありますが、なか〳〵聞き苦しいものです、それには自己の身躰に適當した太さの竹を撰ぶ事即息の不足なる人は細き竹にて吹くと云ふ事は大切なる事でありますが、これを根本的に發達せしむるには肺を丈夫にせねばいけませぬ、肺を丈夫にする事は生理的關係でありますから直に丈夫にすると云ふわけにゆきませんが日々適當なる練習をして漸次的に強大發達せしむる事が出來ます　其に就て最もよき方法は毎早朝東天に向ひ靜座し下腹部に力を入れ簡單なる單音を深呼吸的に出す事です即ロ（靜かに吹き息の充分息を鼻より吸ひ込む）ワ（全上）ー（息を鼻より吸ひ込む事）（全上）（全上）（全上）と云ふ風に一つ一つの音を息の續く限り出すのです、而して其發音に一致して自己の精神を統一しますと健康上頗る有益なる事となります、斯の如くする事が初めは三分づゝより漸次長くして五分十分とします、一、二ケ月の内に著しく肺が丈夫になり從て身躰の各部の健康が增して一擧兩得の利益を得られます

次に如何にせば美事に吹奏し得るやと云ひますと、申す迄もなく音樂は音響でありますから、音響なくしては音樂は決して成立しないのであります

而して樂譜は音樂を奏する方法を或点迄心覺に記したるものでありますから樂譜其物は決して音樂ではありません、よく初學者の落入り易き弊害は樂譜に

あまり、かぢり附く事で　樂譜なくしては吹けぬと云ふのは大なる誤であります、即樂譜は覺える迄の方便でありますから、それにより或点迄練習したら暗記して樂譜なくとも「ドシドシ」吹ける樣にならねばいけませぬ、自己が既に樂譜にかぢり附き何を吹くやら無中になつて分らぬ樣では決して人を感ぜしむる事は出來ませぬ、されば美事に吹奏せんとする人は必ず曲全部を暗記して眼をつぶつても吹奏し得られ又自己も其曲中の人となると云ふ事が大切なる要件であります　試に自分の最も好む曲を暗記してごらんなさい樂々となり「メリ」「カリ」及息の工合も自由自在となります、琴古流の荒木竹翁と云ふ名人は樂譜を見ずに暗記でどんな曲でも奏しておりましたされば皆さんも出來得る限り暗記して美事に吹くと云ふ事を研究して下さい。

▲それから、これにて第三編を終り一通りすみましたから是より隨意科として次の如き目次よりなる第四編第五編第六編等順次發行します希望者は御申込み下さい

◉尺八講義錄第四編（印刷發行濟實費八拾錢送料四錢）

(一) 都々逸　(二) 夕ぐれ　(三) 秋の夜　(四) たてやま節
(五) お江戸日本橋　(六) おいとこ節　(七) わしが國さ　(八) 鎗さび
(九) 海晏寺（加賀よしこの節）　(十) 詩吟に就て　(十一) 詩吟川中島　(十二) 仝棄兒　仝櫻狩
仝 大田道灌（餘興詩吟より巧に變化する大正節）　(十三) 本曲吾妻の曲

(十四) 波の歌（一名新道分節）　(十五) 現代的ね節　(十六) ドンドン節

◉尺八講義錄第五編（實費八拾錢送料四錢）

(一) 紀伊の國　(二) 御所車　(三) 流しの枝　(四) おりてゆく

(五) 御所の御庭　(六) かつぼれ　(七) 大津繪　(八) 義太夫三十三間堂

(九) 義太夫野崎のつれびき

◉尺八講義錄第六編（詳細講義の外に演奏用折本曲譜を添付し送料共實費（壹圓）

長唄越後獅子全部　及び長唄勸進帳月の都の一節

長唄中に最も有名にして苟も日本人にして此曲を知らぬ人なしと迄云はれた、名曲長唄越後獅子の全部を尺八吹奏に最も適したる方法により巧妙に面白く作譜講述してあります、尙有名なる長唄勸進帳中尺八獨奏合奏に最も適したる月の都の一節をも加へてあります

〔尺八譜本演奏用一曲ものは次の目次を見て下さい〕

尺8 P 149 N787

照表

ワ(ヲ)	ヲ	ヲ	ヲ	ヲ	ヲ	ヲ	ヲ	ヲ	ヲ	ヲ	ヲ	ヲ	ヲ	ヲ	ヲ	ヲ	ヲ
♭♭	♭♭	♮	♮	♯	♮	♯	♮	♭	♮	♯	♮	♯	♭♯	♮	♮	♯	♯♯
2	♭3	3	4	♯4	5	♯5	6	♭7	7	1	♯1	2	♭3	3	4	♯4
♮	♯	♮	♯	♯	♭	♮	♮	♯	♭	♮	♮	♮	♯	♮	♯	♮
f²	♯f²	g²	♯g²	a²	♭b²	b²	c³	♯c³	d³	♭e³	e³	f³	♯f³	g³	♯g³	a³
ヘ²	♯ヘ²	ト²	♯ト²	イ²	♭ロ²	ロ²	ハ³	♯ハ³	ニ³	♭ホ³	ホ³	ヘ³	♯ヘ³	ト³	♯ト³	イ³
6,90,52	731,58	775,08	821,17	870,00	921,73	976,54	1,034,61	1,096,13	1,161,31	1,230,37	1,303,63	1,381,04	1,463,16	1,550,16	1,642,34	1,740,00
リ	ヰ	ロ	ヌ	ワ	ツ	ル	ル	チ	チ	ヒ	ヒ	ヒ	イ	イ	ハ	ハ
ヨ	ロ	ヌ	ワ	ツ	ル	チ	チ	ヒ	ヒ	ヒ	イ	イ	ハ	ハ	ハ	ハ
ロ	ヌ	ワ	ツ	ル	チ	チ	ヒ	ヒ	ヒ	イ	イ	ハ	ハ	ハ	ハ	ヘ
ヌ	ワ	ツ	ル	チ	チ	ヒ	ヒ	ヒ	イ	イ	ハ	ハ	ハ	ハ	ヘ	ヘ
ワ	ツ	ル	チ	チ	ヒ	ヒ	ヒ	イ	イ	ハ	ハ	ハ	ハ	ヘ	ヘ	ヘ
ツ	ル	チ	チ	ヒ	ヒ	ヒ	イ	イ	ハ	ハ	ハ	ハ	ヘ	ヘ	ヘ	
ル	チ	チ	ヒ	ヒ	ヒ	イ	イ	ハ	ハ	ハ	ハ	ヘ	ヘ	ヘ		
チ	チ	ヒ	ヒ	ヒ	イ	イ	ハ	ハ	ハ	ハ	ヘ	ヘ	ヘ			

長唄越後獅子全部　及び長唄勸進帳月の都の一節

長唄中に最も有名にして苟も日本人にして此曲を知らぬ人なしと迄云はれた、名曲長唄越後獅子の全部を尺八吹奏に最も適したる方法により巧妙に面白く作譜講述してあります、尙有名なる長唄勸進帳中尺八獨奏合奏に最も適したる月の都の一節をも加へてあります

〔尺八譜本演奏用一曲ものは次の目次を見て下さい〕

尺八音律表（一尺八寸管）

●全開　◓半開　○全開　◉全開を本体とすれ共指の部合にて閉づるも差支之なし

乙音尺八調子笛

裏孔　表孔

特乙上 四 ●　神 四 ●　ロ ●　ロ ●　ロ ●　ロ ●　ロ ●　ロ ●

ロ ●　ロ ●　ロ ●　ロ ●　ロ ●　ロ ●　ロ ●　ロ ●

ロ ●　ロ ●　ロ ●　ロ ●　ロ ●　ロ ●　ロ ●　ロ ●

ロ ●　ロ ●　ロ ●　ロ ●　ロ ●　ロ ●　ロ ●　ロ ●

ロ ●　ロ ●　ロ ●　ロ ●　ロ ●　ロ ●　ロ ●　ロ ●

ロ ●　ロ ●　ロ ●　ロ ●　ロ ●　ロ ●　ロ ●　ロ ●

ロ ●　ロ ●　ロ ●　ロ ●　ロ ●　ロ ●　ロ ●　ロ ●

ロ ●　ロ ●　ロ ●　ロ ●　ロ ●　ロ ●　ロ ●　ロ ●

壹 ロ ●　ロ ●　ロ ●　ロ ●　ロ ●　ロ ●　ロ ●　ロ ●

ロノ筒音

斷 ヌ ●　ヌ ●　ヌ ●　ヌ ◓　ヌ ●　ヌ ●　ヌ ●　ヌ ●

ヌノメリ（大メリの事）

平 ツ ●　ツ ●　ツ ●　ツ ●　ツ ●　ツ ●　ツ ●　ツ ●

ツノ中メリ

勝 ツ ●　ツ ●　ツ ●　ツ ●　ツ ●　ツ ●　ツ ●　ツ ●

ツノ開放（同律）

レ ●　レ ●　レ ●　レ ●　レ ●　レ ●　レ ●　レ ●

レノメリ（大メリの事）

下 レ ●　レ ●　レ ●　レ ●　レ ●　レ ●　レ ●　レ ●

レノ中メリ

双 レ ●　レ ●　レ ●　レ ●　レ ●　レ ●　レ ●　レ ●

レノ開放

鳧 ウ ●　ウ ●　ウ ●　ウ ●　ウ ●　ウ ●　ウ ●　ウ ●

ウノメリ（中メリの事）

黄 チ ●　チ ●　チ ●　チ ●　チ ●　チ ●　チ ●　チ ●

チノ開放

鸞 ヲ ●　ヲ ◓　ヲ ●　ヲ ●　ヲ ●　ヲ ●　ヲ ●　ヲ ●

チノメリ（同律）

チ ●　チ ●　チ ●　チ ●　チ ●　チ ●　チ ●　チ ●

チノ大カリ（同カリの事）

盤 リ ●　リ ●　リ ●　リ ●　リ ●　リ ●　リ ●　リ ●

リノ中メリ

神 リ ●　リ ●　リ ●　リ ●　リ ●　リ ●　リ ●　リ ●

リノ開放

上 ロ ●　ハ ○　イ ○　ロ ●　ハ ○　イ ○　ロ ●　ハ ○　イ ○　ロ ●　ハ ○　イ ○　ロ ●　ハ ○　イ ○

ロノメリ（同律）　二四五ノハノメリ（同律）　イ（匡）ノメリ（中メリの事）

（中メリの事）

甲音尺八調子笛

特甲壹 イ ○　公 ○　公 ●　イ ○　公 ○　公 ●　イ ○　公 ○　公 ●　イ ○　公 ○　公 ◉

イ（匡）ノ開放　ハノメリ（中メリの事）　ロノ筒音

斷 ヌ ●　ヌ ●　ヌ ●　ヌ ◓　ヌ ●　ヌ ●　ヌ ●　ヌ ●

ヌノメリ（大メリの事）

平 ツ ●　ツ ●　ツ ●　ツ ●　ツ ●　ツ ●　ツ ●　ツ ●

ツノ中メリ

勝 ツ ●　ツ ●　ツ ●　ツ ●　ツ ●　ツ ●　ツ ●　ツ ●

ツノ開放（同律）

レ ●　レ ●　レ ●　レ ●　レ ●　レ ●　レ ●　レ ●

レノメリ（大メリの事）

下 レ ●　レ ●　レ ●　レ ●　レ ●　レ ●　レ ●　レ ●

レノ中メリ

双 レ ●　レ ●　レ ●　レ ●　レ ●　レ ●　レ ●　レ ●

レノ開放

鳧 チ ●　チ ●　チ ●　チ ●　チ ●　チ ●　チ ●　チ ●

チノメリ（中メリの事）

黄 チ ●　チ ●　チ ●　チ ●　チ ●　チ ●　チ ●　チ ●

チノ開放

鸞 ヒ ●　ヒ ●　ヒ ●　ヒ ◓　ヒ ●　ヒ ●　ヒ ●　ヒ ●

チノメリ（同律）

チ ●　チ ●　チ ●　チ ●　チ ●　チ ●　チ ●　チ ●

チノ大カリ（同カリの事）

盤 ヒ ●　ヒ ●　ヒ ●　ヒ ●　ヒ ●　ヒ ●　ヒ ●　ヒ ●

ヒノ中メリ

神 ヒ ●　ヒ ●　ヒ ●　ヒ ●　ヒ ●　ヒ ●　ヒ ●　ヒ ●

ヒノ開放

上 イ ○　イ ○　イ ○　イ ◉　イ ○　イ ○　イ ○　イ ●

イ（匡）ノメリ（中メリの事）

壹 イ ○　公 ○　公 ●　イ ○　公 ○　公 ●　イ ○　公 ○　公 ●　イ ○　公 ○　公 ●

イ（匡）ノ開放（同律）　五ノハノメリ（中メリの事）

斷 公 ○　公 ○　公 ●　公 ○　公 ●　公 ●　公 ●　公 ●

二四五ノハノメリ（同律）　三五ノハノメリ（中メリの事）

平 公 ○　公 ●　公 ●　公 ●　公 ●　公 ●　公 ●　公 ●

四ノハノ開放（或一孔開）

勝 公 ●　公 ●　公 ●　公 ●　公 ●　公 ●　公 ●　公 ●

一ノハノ開放

双 匡 ●　○　●　○　○　○　○　○

三五ノレメリ（中メリの事）

備考

開放　身体顔面を眞直に正しく持して尺八を五十度の角度にて腮（アゴ）に當て吹く事にて之を以て吹奏上の本体とす

カリ　開放の姿勢より腮を一層出して開放の音より一律高く吹く事

中メリ　開放より少し腮を引きて開放の音より一律低く吹く事

大メリ　開放よりズット腮を引き孔を半閉にして開放の音より二律低く吹く事

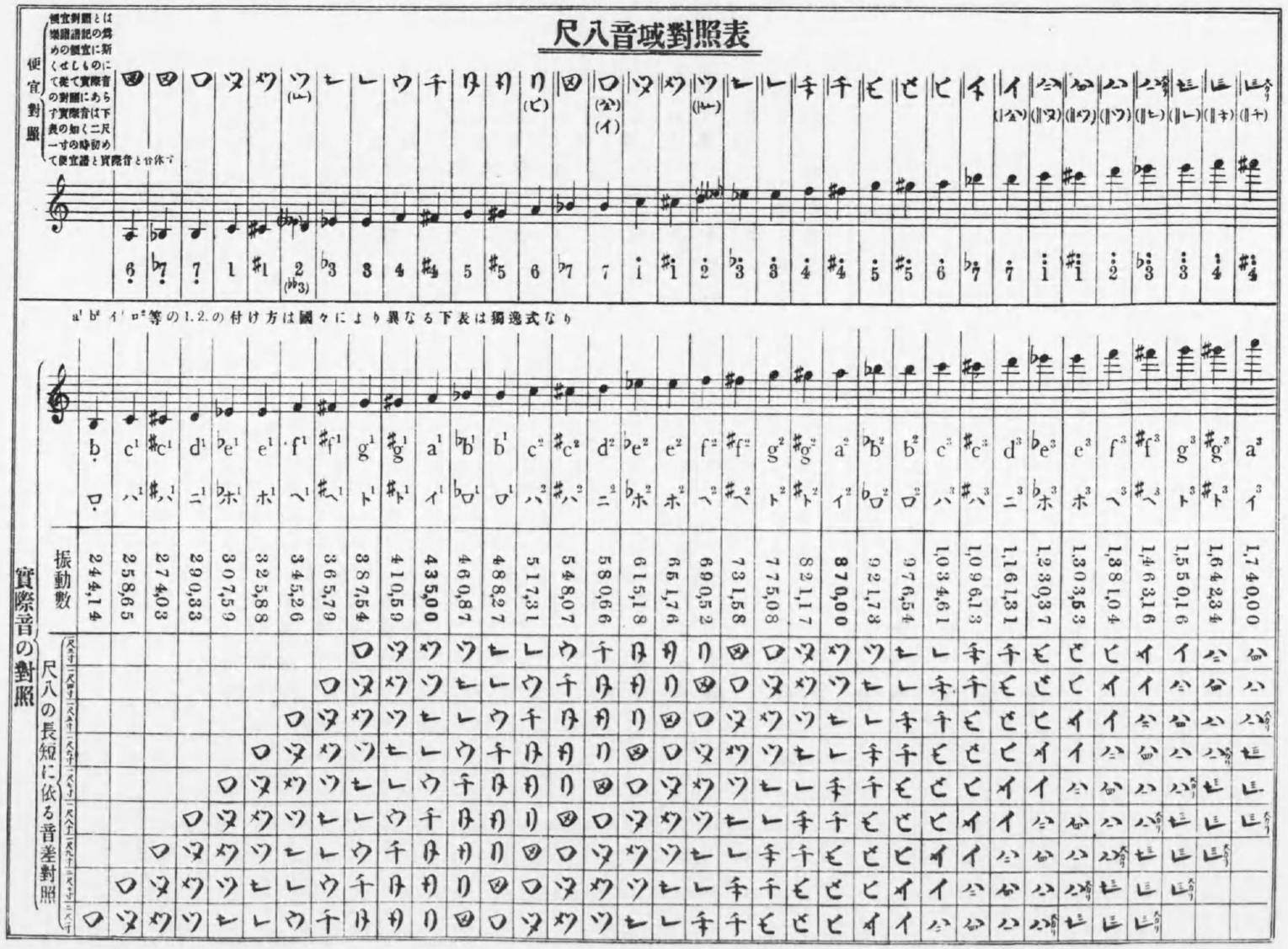
メリカリ　是は比較的の語にして或音より低く沈めて吹く事をメリと云ひ高く浮かして吹く事をカリと云ふ

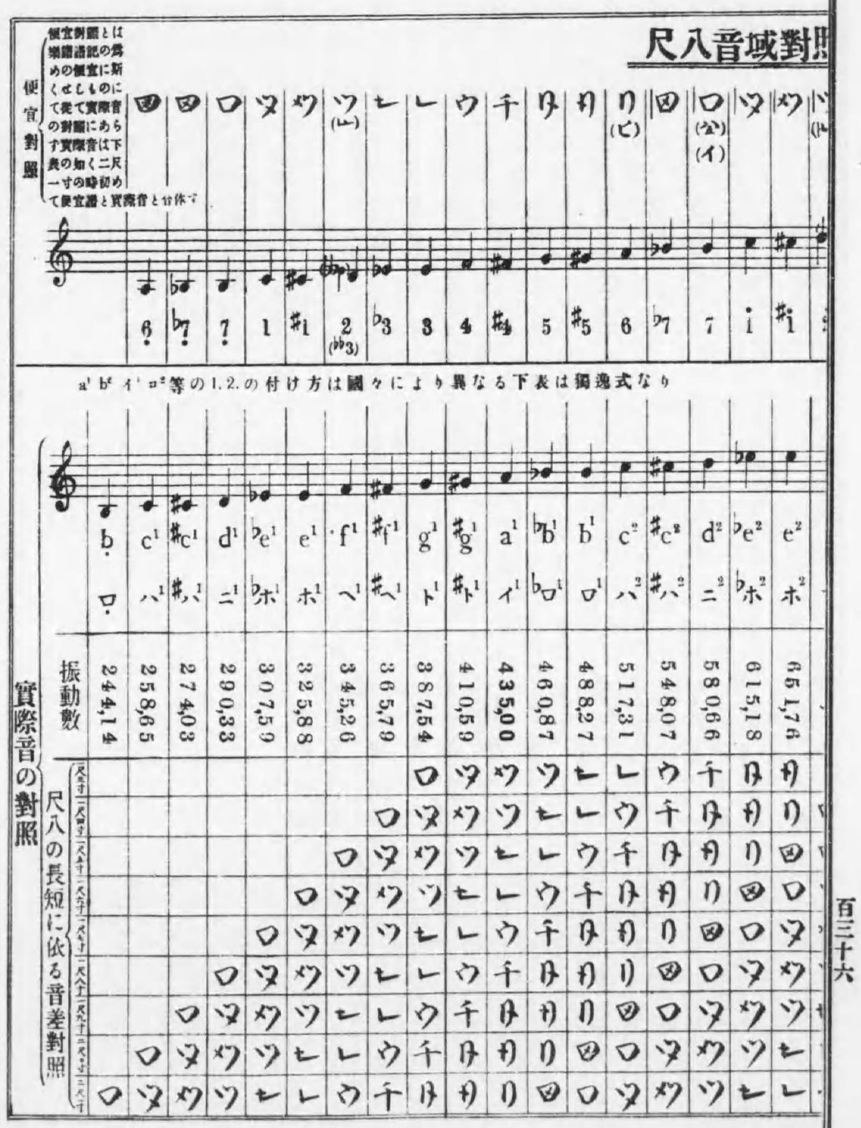
然して多年の習慣上定まりし通稱には不合理の稱呼あれど便宜上通稱を示して（　）の内に事實を示す事とせり。

◉第三編終了に就て

以上千鳥の曲迄の修了に依つて一通りの吹奏法を了解された筈でこれにて初心者の域を通過された譯ですから今後は一歩進んで色々澤山の樂譜の中から好みの曲を撰んで吹奏する事の出來る樣に一般樂譜の見方に馴れなければなりません。その準備として今迄の形式と對照研究をするのに便利のため既に修得された鶴の聲、六段、千鳥の曲の樂譜を例に示しませう、そして今迄と異なつた点に付いて左の解説をよく理解して下さい。

(2)……二倍に延ばすと云ふ意味で是迄吹き來りし二拍子の書方を此記號のある所から一拍子の書方で表はしたと云ふ印です故に今度の一拍子が前の二拍子の長さとなる譯です、之は樂曲の性質により拍子の數を少な





◉第三編終了に就て

以上千鳥の曲迄の修了に依つて一通りの吹奏法を了解された筈でこれにて初心者の域を通過された譯ですから今後は一歩進んで色々澤山の樂譜の中から好みの曲を撰んで吹奏する事の出來る樣に一般樂譜の見方に馴れなければなりません。その準備として今迄の形式と對照研究をするのに便利のため既に修得された鶴の聲、六段、千鳥の曲の樂譜を例に示しませう、そして今迄と異なつた点に付いて左の解説をよく理解して下さい。

(2)……二倍に延ばすと云ふ意味で是迄吹き來りし二拍子の書方を此記號のある所から一拍子の書方で表はしたと云ふ印です故に今度の一拍子が前の二拍子の長さとなる譯です、之は樂曲の性質により拍子の數を少なくして見易からしめる爲に用ひるものです

$(\frac{1}{2})$……倍早くすると云ふ意味で是迄吹き來りし一拍子の書方を此の記號のある所から二拍子の書き方で表はしたと云ふ印です故に今度の二拍子が前の一拍子の長さになる譯です、之は樂曲の性質により拍子の數を多くして見易からしめる爲に用ひるものです

……スラーと云ひツ)「千リ」の如き形にてツよりレに千よりリに移る場合に角立たぬ樣(アタリ)を付けず圓滑に奏する印です

R3P 14 11 N791

の如く本体になき場所へ竹が入れる手即ち入れ手の印です

掛合ひの印にて三絃と合奏の場合は尺八は並字の方を奏し二重字の方は三絃が奏します、箏と合奏の場合は尺八は二重字の方を奏し箏は並字の方を奏します、但し千鳥高砂等の如き箏のみにて三絃になき曲は尺八が並字の方を奏し箏が二重字の方を奏します

割りの印にて掛合の時と等しく三絃と合奏の場合は尺八は並字の方を奏し二重字の方は三絃が奏します、箏と合奏の場合は尺八は二重字の方を奏し箏は並字の方を奏します、但し千鳥高砂等の如き箏のみにて三絃になき曲は尺八が並字の方を奏し箏が二重字の方を奏します

曲中の一段落で此印の前は自然に静かに延ばすのです

終曲の印で少し前より自然に静かに延びて曲を終ります

譜表上ー は半拍子になつて居りますが實際は一拍子に奏すと云ふ印ですこれは右が強く左が弱くある可き奏方が亂れて不自然になつた場合の調節法です

或はこふも奏する人もあると云ふ意味です

山田流の人はこふ奏すると云ふ意味です

四拍子例

三拍子例

二拍子例

一拍子半例

一拍子例

又・半拍子例

又 四半拍子例

又 八半拍子例

音を出さずに休む印にて休止符又は默符と云ひます拍子の長さは音符の場合と同じ方法で表はします即ち四拍子は○半拍子は○の如くです

スリ上げと云ひ 千 又 即 は千の指を少しづつ開けて千に移り又ツに落す一音上の指をスリ開ける事

(連續符)と同樣にて初め少しメリユル形にてカル是をナヤシと云ふ本曲に重に用ゆ歌曲の時は( )の力の強きものと同視する事あり

曲の進行に依つて拍子の早くなる時に用ひ汽車の停車場を出發するが如く漸次に早くなる樣に曲の拍子が早くなる事

曲の一部の段落又は歌になる前とか終曲などは必ず是を用ゆ汽車の停車場に着するが如く緩になる事

箏、三絃と合奏する場合は相手の調子に依り左の對照表に準して合調するものです

(箏尺八調子對照表)

調子名／絃名	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	斗	為	巾
平	ㄴ	り	ロ	ヌ	ㄴ	ウ	り	ロ	ヌ	ㄴ	千	ヒ	公
平	り	ツ	ㄴ	ウ	り	四	ツ	ㄴ	千	ヒ	イ	ツ	ㄴ
平	ロ	ㄴ	千	月	ロ	月	ㄴ	千	モ	公	公	ㄴ	千
雲井	ロ	ㄴ	ウ	り	ロ	ヌ	ㄴ	千	モ	公	公	ㄴ	千
半雲井	ロ	ㄴ	千	月	ロ	ヌ	ㄴ	千	ヒ	公	公	ㄴ	千
片雲井	ロ	ㄴ	千	り	ロ	ヌ	ㄴ	千	ヒ	公	公	ㄴ	千
古今	ロ	ㄴ	千	り	ロ	ヌ	ㄴ	千	ヒ	公	公	ㄴ	千
岩戸	り	ㄴ	ウ	り	四	ツ	ㄴ	千	ヒ	イ	ツ	ㄴ	ヒ
半岩戸	ロ	ㄴ	ウ	り	ロ	ツ	ㄴ	千	ヒ	ツ	公	ㄴ	千
片岩戸	ロ	ㄴ	ウ	り	四	ツ	ㄴ	千	ヒ	公	公	ㄴ	千
中空	ロ	ㄴ	千	月	ロ	ツ	ツ	千	モ	公	公	ツ	千
曙	ロ	ㄴ	千	月	ロ	ツ	ㄴ	千	モ	公	公	ㄴ	千
櫻	ロ	ㄴ	ウ	り	ロ	ヌ	ㄴ	千	ヒ	公	公	ㄴ	ヒ
三段	ロ	ㄴ	千	り	ロ	ツ	ㄴ	千	モ	公	公	ツ	千

右の箏調子の内ロ一の平調子は基本の調子にて他の調子は皆演奏する曲の必要に應じて或絃の調子を變化せしものです平調子に三種即ち(ロ一)(ㄴ二)(り三)等あるは三絃と合調上の都合にして本調子の場合は(ㄴ二)一メリ二上りの場合は(り三)二上りの場合は(ロ一)に調絃するものです

(三絃尺八調子對照表)

調子名／絃名	一	二	三
本調子	ロ	ㄴ	口
二上り	ロ	千	口
三下り	ロ	ㄴ	り
一下り	り	ㄴ	口
六下り	ロ	ㄴ	千
低二上り	四	ㄴ	千

右の調子の内本調子は箏に於ける平調子の如く三絃調子の基本の調子にて他の調子は皆これを基として變化せしものですそして其の名稱も本調子の三の絃が下がつたものを三下り二の絃の上つたものを二上りと云ふ樣に名附けてあります箏に於ける場合も同じ樣な字義を用ゐてあります六下りは三下がりの三が尙一層下がつたもので三三下りとも云ひます

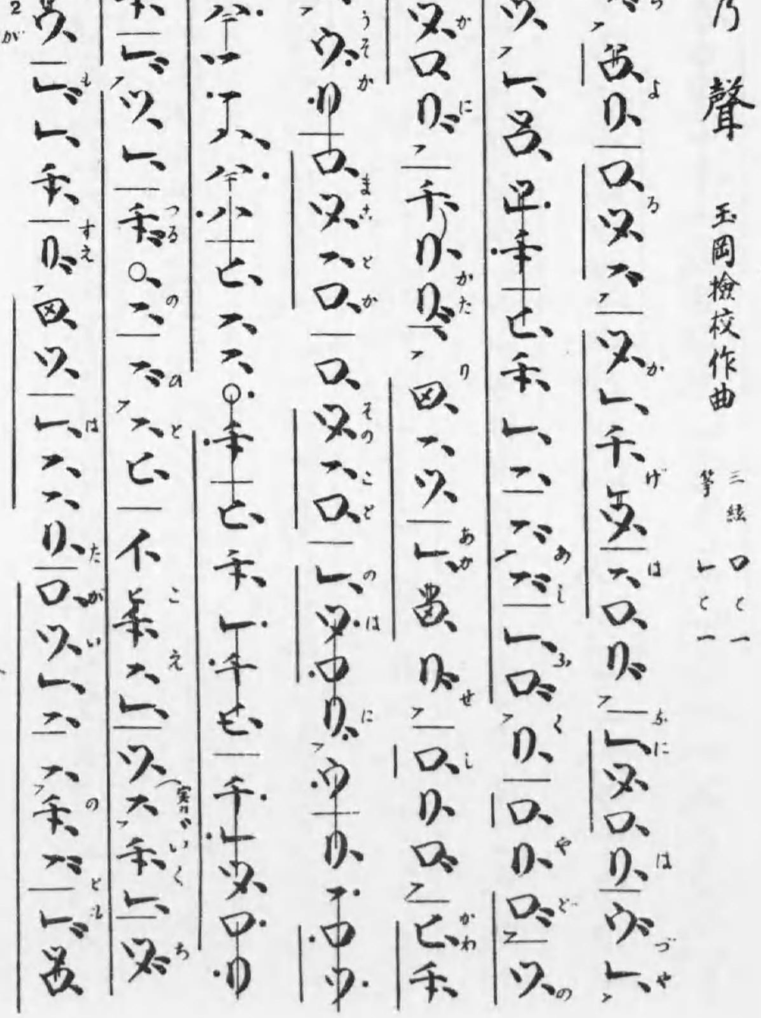
低二上りは(一メリ)二上りとも云ひます

尺SP 14 11 N794

鶴乃聲

玉岡檢校作曲

三絃 ロ く 一
箏 ㄴ く 一



尺SP 14 11 N795

六段乃調

八橋検校作曲

箏 一 一
三絃 ロ 一

前奏

初段

二段

R8P 14 11 N796

三段

R3P 14 11 N797

四段

五段

R3P 14 II N798

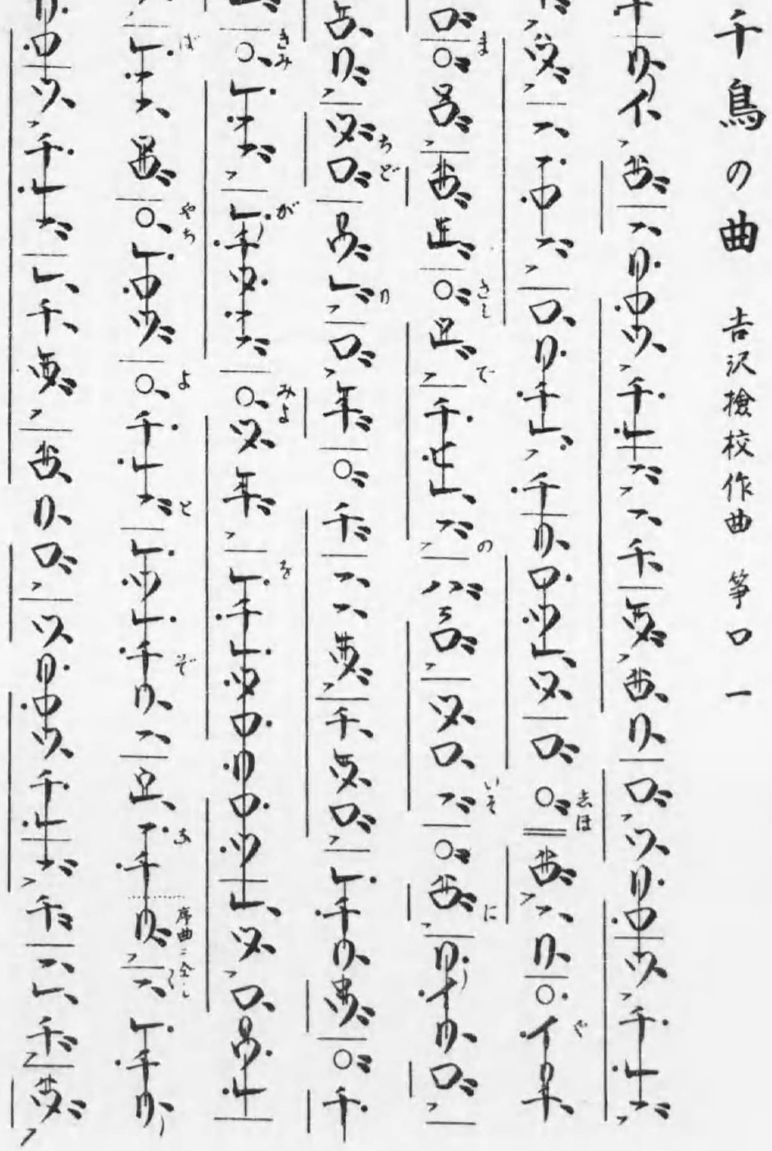
六段

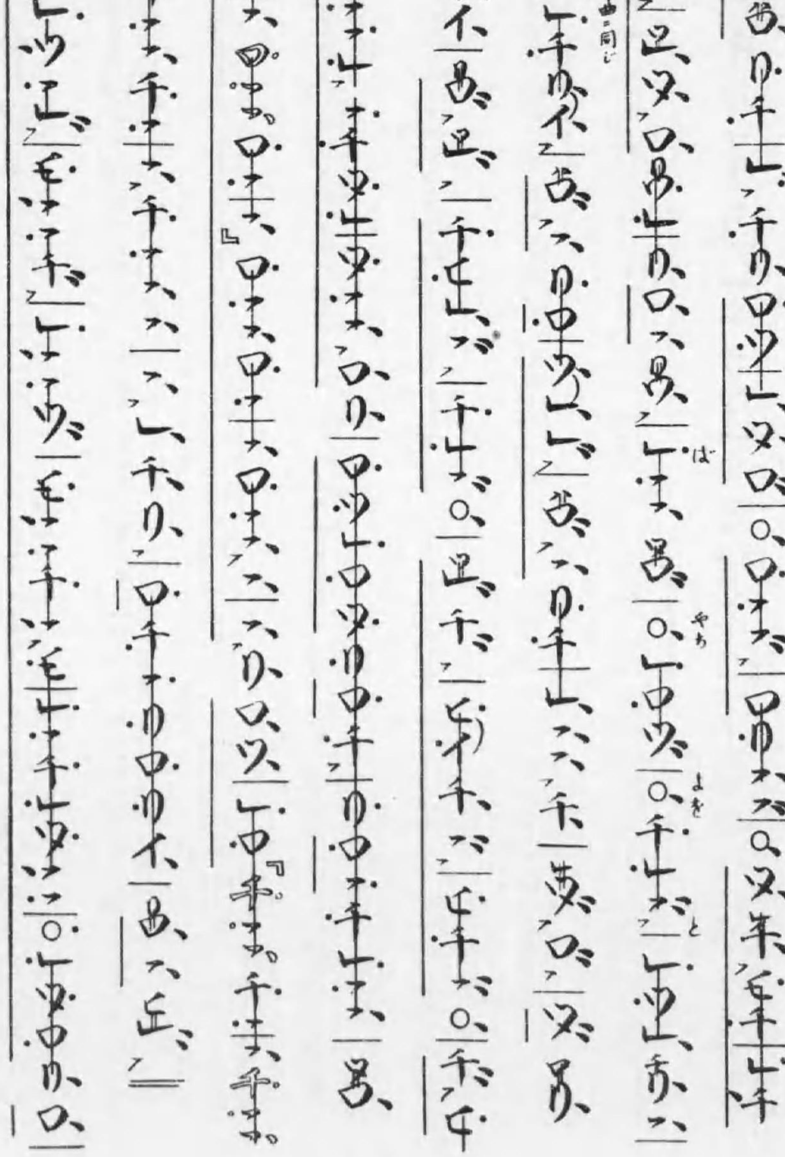
◎注意 譜中左側ノ印ハ息ノ号「ヨリヌスム息」横線ハ曲頭ヲ持ツ小節区切

R3P 14 II N799

千鳥の曲

吉沢検校作曲　箏口一





◉尺八音譜の拍子記號を應用し、尺八と連絡ある本邦唯一の三味線講義錄

◎日本樂器中の第一位にある三味線を、かほど分り易く、かほど面白く講述したものは今迄、決してありません、實に此講義錄による時は如何なる人も直に地歌、端歌、流行歌等が自由自在にひける樣になります、大要は左の目次を御覽下さい

（毎ケ月終了）
（入會金五拾錢）
（會費一ケ月壹圓）
（送料六錢）

◎但し巻ケ月分送料共巻圓拾八錢納者は入會金ハ免除すへし

第一編（說明編）

緒言

ト、雜記號
リ、譜の讀み方即ち口三味線　チ、速度の標語
（以上一編）

第一章　三味線の概要

1. 三味線の由來　2. 三味線の種類
3. 三味線の各部　4. 三味線の持ち方に彈き方の要領
5. 三味線の保存法及手入法

第二章　三味線に關する樂典大要

1. 音とはどんなものか　2. 音の高低
3. 音の強弱　4. 音色
5. 音名　6. 三味線の音（即ち勘所）
7. 三味線の調子
　イ、調子の種類及各調子の本調子との關係
　ロ、調子の高さ即ち何本調子と云ふこと
　ハ、調子の合せ方
　ニ、任意の調子から他の各調子を合せること
　ホ、各樂器を同調子に合はせること
8. 三味線の譜
　イ、譜の必要及利用
　ロ、三味線の譜は大體どんなものか
　ハ、音符及糸の區別　ニ、間拍子獨習法
　ホ、拍子記號　ヘ、指使ひ及撥使ひの記號

第二編（基礎練習編）

第三章　基礎練習

1. 三下り調子合せ方練習　放絃練習　一拍子の音符と一拍子の休止符との練習、譜の讀み方練習其の一
2. 指使ひの練習其の一、二拍子の音符と二拍子の休止符との練習
　イ、唱歌數（歌（其一）　ロ、流行唄宮さん〳〵（其一）
3. 半拍子の音符練習其の一
　イ、唱歌數（歌（其二）　ロ、小唄十日戎
4. 二上りの調子合せ方練習、指使ひの練習（其の二）
　イ、唱歌數（歌（其三）　ロ、唱歌數（歌（其四）
　ハ、唱歌風車　ニ、流行唄宮さん〳〵（其の二）
　ホ、童謠高い山
5. 半拍子の音符練習其の二、半拍子の休止符練習、一拍子半の音符及半拍子の飛入音符の練習
　イ、唱歌行けども　ロ、流行唄來いといふたとて
　ハ、劇歌カチユーシヤ（其一）　ニ、劇歌カチユーシヤ（其二）
　ホ、劇歌カチユーシヤ（其三）　ヘ、唱歌舟遊び
　ト、唱歌四季の月　チ、唱歌荒城の月

リ、唱歌花紅葉　ヌ、唱歌螢の光
6. 四半拍子の飛入音符練習、掛ひ撥の練習其の一
　イ、流行歌野毛の山から　ロ、流行歌紫節
　ハ、唱歌逢めや逢め　ニ、唱歌戰友
　ホ、唱歌鐵道唱歌　ヘ、小說歌不如歸
　ト、唱歌春湖畔
7. 「ハウキ」の練習其の一、二本の糸を同時に彈く練習譜の讀み方
　練習其二
　イ、軍歌金比羅船々　ロ、琴歌さくら〳〵
　ハ、謠唄橋長陣が種まく
8. 四半拍子の音符練習、掛ひ撥とハウキとの練習其の二
　イ、聲譜こゑ〳〵ちきや　ロ、流行唄梅ヶ枝
　ハ、唄歌勢へ歌（其五）　ニ、流行唄蟬々蛙蝉
　ホ、謠唄一夜あくれば　ヘ、俚謠山寺の
　ト、流行唄來が十錢すりや　チ、流行唄ありやなんじや
　リ、唱歌蟲の樂隊
9. 三つ拍子の練習
　イ、唱歌港（空も港も）　ロ、唱歌人然の美（其一）
　ハ、唱歌天然の美（其二）
10. 本調子合せ方練習、スリ音とウチ音との練習互に調子の異なる本手と替手との合奏法及掛け合の練習
　イ、俚謠讀賣節　ロ、義太夫平作は千鳥足
　ハ、琴曲琴の音　ニ、端唄潮來出島
　ホ、端唄綠がいな　ヘ、端唄折りて行く
（以上二編）

第三編（雜曲編）

1. 國歌君が代　2. 流行唄御琴々
3. 流行唄大正節　4. 流行唄唄帆節
5. 流行唄春はうれしや　6. 流行唄さのさ節（本手）
7. 流行唄さのさ節（替手）　8. 流行唄風にひらめく
9. 流行唄博多節　10. 流行唄芝で生れて
11. 俚謠山寺の　12. 流行唄磯節
13. 流行唄新磯節　14. 流行唄まつくろけ節
15. 謠唄深川　16. 俚謠木曾節
17. 流行唄丹後の宮津　18. 小唄十日戎（替手）
19. 流行唄東雲節　20. 流行唄浮世節
21. 囃子唄竹に雀　22. 囃子唄絆か不絆か
23. 囃子唄日本舞踊　24. 囃子唄和藤內
25. 小唄立てた蔕　26. 流行唄ぎつちよん〳〵節
27. 俚謠節おいとこ節　28. 端唄瓔のほつれ
29. 端唄鎗さび　30. 端唄浅くとも
31. 端唄浮世離れて　32. 謠唄かつぽれ
33. 端唄梅にも春　34. 端唄鼠さん
35. 端唄我が物　36. 端唄秋の夜
37. 端唄宇治茶　38. 端唄伊勢節
39. 端唄春雨　40. 端唄御所車
41. 端唄夕ぐれ　42. 端唄惚れて通ふに
43. 端唄京の四季　44. 端唄波しの枝
45. 地唄鶴の聲　46. 地唄門松
47. 地唄黑髮　48. 地唄柴の葉
49. 長唄舌出し三番叟　50. 長唄鶴亀
51. 長唄越後獅子　52. 義太夫八陣守護城
53. 義太夫三十三間堂　54. 野崎村
（以上三編）

以上を三ケ月分とし此れより隨意科として引續き單行譜（一曲もの）として琴曲、長唄端唄義太夫、續々發行します。希望者には、くわしき目錄を進呈します。

通信教授 音樂講義錄

東京音樂學校教授山口巖先生校閲

賜天覽

秋月作、尺八特許、復音大正琴朝日ヴァイオリン

通信教授 ヴァ井オリン講義錄
通信教授 マンドリン講義錄
通信教授 ハーモニカ講義錄
通信教授 尺八講義錄
通信教授 琴講義錄
通信教授 三味線講義錄
通信教授 復音大正琴講義錄

賜台覽

琴曲樂譜、別名すぐわかる琴の譜本

何故本會の各種講義錄は大好評なるや？

音樂が通信教授などで出來るものかと云ふ人がありますがそれは此本會專賣の巧妙なる方法を知らぬからであります、即本會講義錄による時は上記各科希望の樂器を居ながらにして、直接教師に就て學ぶより、より以上の効果と使料が多數あります

されば三ヶ月を出ずして人の前で奏せる位にキツトなれます。

論より證據上記各科の內希望の科目を明記して御申込次第くわしき規則書を進呈します規則書には內容目次は勿論、各地實驗者の熱狂的感謝狀が多數掲載してあります。

（本會の大發展につれ近來僞物を發行する不正者があります必ず福岡市、大日本家庭音樂會の名に御注意下さい）

福岡市中島町十番地

大日本家庭音樂會

家庭

家庭なる文字は大正六年二月廿六日商務省特許より本會に專許されたる登錄商標に付き今後無斷使用を禁ず

電話一五四四（誠後獅子）番
電話二七一九（舟行）番
振替口座福岡五五〇〇番
福岡郵便局私書函第十三號
電報發信略號（カテ）又は（カ）

◆尺八講義錄第四編

（印刷發行濟實費八拾錢送料四錢）

（此目次）

1 都々逸　2 夕ぐれ
3 秋の夜　4 たてやま節
5 お江戸日本橋　6 をいとこ節
7 わしが國さ　8 鎗さび
9 海晏寺（加賀よしこの）　10 詩吟に就て
11 詩吟川中島　同 櫻狩　同 樂子　同 太田道灌

餘興。詩吟より巧に變化する大正節

12 ドコマデモ節　13 本曲・吾妻の曲
14 海の歌（一名新追分節）　15 現代的ね節
16 ドンドン節

◆尺八講義錄第五編

（印刷發行濟實費八拾錢送料四錢）

（此目次）

1 紀伊の國　2 御所車
3 流しの枝　4 をりて行く
5 御所の御庭　6 かつぼれ
7 大津繪　8 義太夫三十三間堂
9 義太夫野崎のつれびき

◆尺八講義錄第六編

長唄・越後獅子全部及長唄・勸進帳月の都の一節及本曲・竹しらべの曲（詳細講義外に演奏用の折本曲譜を添付し送料共實費壹圓）

長唄中にて最も有名にして苟も日本人にして此曲を知らぬ人なしと迄云はれた名曲長唄越後獅子の全部を尺八吹奏に最も適したる作譜法により巧妙に面白く作曲講述してあります、尙有名なる長唄勸進帳の中、尺八獨奏及合奏に最も適したる、月の都の一節をも加へてあります。

◆尺八講義錄第七編

尺八本曲集（此編は特に全部に）て實費五圓とする

（附言）尺八樂には固有の本曲と云ふのがあります本曲は頗る禪味を帶びたるものでありまして苟も眞に尺八を研究せんとする人は必ず知つて居らねばなりません。卽本曲は尺八樂の大乘であります

然るに本曲には全完なる譜なく皆口傳でありまして且秘密にしてなか〳〵傳にません。然かも傳授の際には一曲につき多額の傳授料を徵收する習慣になつて居ります茲に於て本會は舊主義を打破し開放的に本曲全部を取まとめ完全なる音譜として發行する事としました。只以上の次第ですから此編の編纂には多大の費用を要したので特に實費五圓とする事にしました。

（平物）

1 一二三調　2 鉢返しの曲　3 瀧落の曲
4 三谷の曲　5 九州鈴慕　4 窓闇の曲
7 吉野の曲　8 奥州流し　9 筑紫鈴慕
10 打破の曲

（初傳）

1 秋田菅驥　2 門閉の曲
3 轉菅驥　4 吾妻の曲

（中傳）

1 戀慕流し　2 深夜の曲

3 巣鶴（巣籠古傳） 4 雲井獅子（響調子） 5 陸奥鈴蘆
（奥傳） 2 虚空 3 虚空
4 虚鐸 5 露海虎 6 薩慈（河字觀）
（秘曲） 1 鹿の遠音 2 鶴の巣籠
3 榮獅子 4 千風叫虚空 5 龍吟虚空

尺八講義錄臨時增刊

尺八（古傳）（本曲）秘曲（鹿の遠音）（鶴の巣籠）

定價 金貳圓 送料 八錢

右二曲は御存じの如く尺八本曲に於ける有名なる秘曲であります、

卽ち鶴の巣籠は……燒野の雉子夜の鶴巣籠せる鶴が子を思ふ情の切なるを遺憾なく表はし又鹿の遠音は秋深く山の端に半月かゝる谷を隔てゝ雄鹿、雌鹿の鳴く情景を巧に作曲せし尺八本曲中の秘曲であります、されば獨奏して趣味津々此上なき名曲であります。

◆尙續々發行◆

◉新刊出でたり

（各編八拾錢送料六錢づゝ）

尺八講義錄臨時增刊卷頭曲譜第一集

今度新刊のは、會員諸氏よりの希望により本會發行家庭音樂雜誌卷頭尺八譜を全部集め臨時增刊として發行せしものです

（一）今樣調 （二）さすらいの唄 （三）殘月一聲
（四）シュッ〳〵節 （五）ばらの歌 （六）六ニコ〳〵節（一名ヨカツタネー節）
（七）筑摩川急流の一節 （八）青島ぶし（一名ナッチョラン節）
（九）アイドントノー節 （十）斷腸ネ節 （十一）春雨節
（十二）木曾の御嶽山（木曾節） （十三）梅は咲いたか（しよんがいな）
（十四）カルメンの唄（戀の鳥） （十五）びんのほつれ （十六）潮來出島
（十七）梅にも春 （十八）淺くとも （十九）博多節
（廿）竹しらべの曲 （廿一）合圖の高音 （廿二）秋聲の曲
（廿三）虚空 （廿四）森の神秘 （廿五）松風眞之調
（廿六）春の調（霞の巻） （廿七）春の調（花の巻） （廿八）家庭鞄（第一號）

尺八講義錄臨時增刊卷頭曲譜第二集

（三）波の歌（一名新追分節）
（一）御大禮奉祝唱歌 （四）ドン〳〵節
（二）どこまでも節 （五）深川くづし（一名デモネー節） （六）有明節
（七）現代的だネ節 （八）軍隊進行嗽叭節
（九）道は六百八十里 （十）呉節（スキヤシーナンギヤナー節）
（十一）子守唄 （十二）哀悼の歌 （十三）新磯節
（十四）青柳 （十五）安來節 （十六）四季
（十七）秋の夜 （十八）歌詞付き六段調
（十九）歌詞付きドナウ河の漣 （廿）二部合奏新內流し
（廿一）青海波 （廿二）曙獅子 （廿三）二三鉢の返調
（廿四）瀧落の曲 （廿五）靈山跋 （廿六）秋の調（月の巻）

◎尺八講義錄臨時增刊端唄集

（印刷發行濟實費八拾錢送料四錢）

尺八端唄は、次に其目次が示してある通り極めて面白い、且普通の人の好む曲ばかり集めたものです、殊に端唄吹奏者として蓄音機にも吹き込たる有名なる山本秋水氏がねんごろなる御講義振りは他に決して見る事の出來ぬものと思ひます、尺八を學ぶ人は必ず一度御一讀の上御推薦あらん事を切望致します

目曲

1 よりを戻して 2 有明節 3 伊豫節
4 木津川 5 潮來出島 6 梅にも春
7 館山 8 三十三間堂 9 安來節
10 梅は咲いたか 11 博多節 12 流しの枝

◆特長ありて他に比類なき

◆本會發行尺八曲譜目錄

（切手代用差支へなし）

尺八本曲集 五圓
古傳本曲秘曲鹿の遠音 二圓
鶴の巣籠
鶴の聲と黑髮 三十錢
御製の曲 三十錢
八千代獅子 三十錢
新高砂 三十錢
洞の梅別名神樂 三十錢
夕空 三十錢
萬歲 三十錢
巖上の松 三十錢
金剛石と秋の日 三十錢
八段 三十錢
大內山 三十錢
涙花獅子 三十錢
靈井六段 三十錢
松上の鶴 三十錢
春雨と御所車 三十五錢
六段の調 三十五錢
ゆき 三十五錢
千鳥の曲 三十五錢
みだれ 三十五錢
夕顏 三十五錢
棒づくし 三十五錢
末の契り 三十五錢
雪月花 三十五錢
玉樽 三十五錢
川千鳥 三十五錢
竹生島 四十錢
生田ほとゝぎす 四十錢
茶の湯音頭 四十錢
新姫道成寺別名鐘ヶ岬 四十錢
琴曲越後獅子 四十錢
椙枕 四十錢
博多節 四十錢
門松、松づくし七草 四十錢
長良の春 四十錢
秋の言葉 四十錢
名所土產 四十錢
けしの花 四十錢
摘草 四十五錢
玉川 四十五錢
さむしろ 四十五錢
四季の眺 四十五錢
里の曉 四十五錢
翁 四十五錢
玉の響 四十五錢
御國の響 四十五錢
歌千鳥 四十五錢
春の曲 五十錢
吾妻獅子 五十錢
舟の夢 五十錢
冬の曲 五十錢
秋の曲 四十錢
長唄勸進帳 五十錢
夏の曲 五十錢
長唄越後獅子 五十錢
若葉 五十錢
新綠 五十錢
宇治めぐり 六十錢
追分節と二上新內 六十錢
夜々の星 六十錢
七小町 六十錢
松竹梅 六十錢
酒（笹の露） 六十錢
御山獅子 六十錢
殘月 六十錢
萩の露 六十錢
西行櫻 六十錢
今小町 六十錢
根曳の松 七十錢
青柳 七十錢
八重衣 八十錢
菴頭曲譜集 第壹集 八十錢
菴頭曲譜集 第貳集 八十錢
菴頭曲譜集 第三集 八十錢
菴頭曲譜集 第四集 八十錢
尺八端唄集 第壹集 八十錢
▲以下續々毎月發行す

◉樂器を手に取れば譜は直に眼の前にあり
歩行しながら譜を見て奏する事自在

新案特許

尺八取付譜面臺

定價 壹圓貳拾錢
荷造送料 貳拾錢
カード式譜記用紙一枚四錢
くはしき說明書及び目錄入用の御方は申込次第進呈す

尺八取付譜面臺演奏の圖

□世界唯一のヴアイ井オリン通信教授講義錄□

◎此ヴアイオリン講義錄の優秀なる事は規則書添付の多數感謝狀實寫（無論住所氏名明記の）は實に之を證明す

農商務省新案特許本會專賣
通信教授
ヴアイオリン講義錄

最も初歩者を歡迎す
初歩ならざる人も必ず見よ
大に得る處あるべし

大好評既に百十版

音樂中最も六ケ敷と稱せらるゝヴア井オリンが通信教授などで出來るものかと云ふ人あらばそは本會の新發明の方法と本書の內容を知らざる人なり論より證據既に入會したる會員より（規則書には其住所氏名を明は其方法の巧妙なる其の講義の懇切なる等想像以外にして實際教師につき學ぶより遙かに優れりとて嬉しさの餘り皆多大の感謝狀を送り來れり）記したる感謝狀を添付す若し疑惑を抱く人あれば直接其人々に照會ありたし）

特色

（一）此方法による時は全く知らぬ人が僅か三ケ月で卒業し人の前でひける位にキットなれる　（二）講義は唱歌マーチ洋曲三絃曲「春雨、越後獅子、浦島、勸進帳等」琴曲「黑髮、六段、千鳥」等面白くてたまらぬものを百十餘曲詳細に講義しありまして稽古する事ができ且質問隨意なり

（三）どんな山中でも居ながらひま〳〵を利用して

◉入會金五拾錢會費一ケ月九拾錢送料六錢但三ケ月分會費二圓七拾錢及送料拾八錢合計貳圓八拾八錢前納者入會金を免除す

尙詳細なる感謝狀付規則書希望者は郵券參錢封入申込まれよ

發行所（本部）九州福岡市　大日本家庭音樂會

振替福岡五五〇〇番
電話一五四四イコヨシ番
電話本局特長二七一九番

支部　東京神田須田町一番地　大日本家庭音樂會東京支部

振替口座東京二七八〇〇番
電話本局五五九七番

□尺八會員又は其紹介あるときは特に入會金を免除す□

尺三附錄ノ四

東京音樂學校教授邦樂調査員山口巖先生校閲

すぐわかる琴の譜本

◉尺八音譜の拍子記號を應用し、尺八と連絡ある本邦唯一の琴曲樂譜

尺八會員又は其紹介あるときは斯道奬勵の爲特に定價の二割引ごす

◉僞物注意

（近來各地にて種々の僞物を發行する不正漢がありますが必ず九州福岡市大日本家庭音樂會に御申込下さい）

◆何故すぐわかるか、先づ參錢切手七枚送られよ。見本代用として定價四拾錢の新式手ほどき六曲及顏生田流（共）山田流（通）六段の曲送附進呈する詳細なる說明付

回本會發行の琴曲譜は歌の節まで完全に入りをりて大好評既に各地の高等女學校等にては續々教科書に採用す。

◉發行曲譜目錄

◉合本の部（歌の節をくわしく獨習せんとする人は次の分本を見られよ）

定價　各編　貳圓づゝ　郵稅八錢宛

◉生田流の部

（生田流第壹編）手ほどき六曲。鶴の聲。黑髮。八千代獅子。夕空。六段。夕顏。大內山。御製の曲。金剛石。新高砂

（生田流第貳編）丹頂の鶴。萬歲。ゆき。末の契。八段。巖上の松。らつばの曲。ほとゝぎす。夏の曲。秋の曲。楓の花。殘月。松竹梅。附錄千鳥の曲替手。

（生田流第參編）袖の露。越の戶。松づくし。松上鶴。新雪月花。四季の眺。冬の曲。難波獅子。磯千鳥。明治松竹梅竹生島。秋風。八重衣。小督の曲。

◉山田流の部（各編貳圓づゝ送料八錢）

（山田流第壹編）新式手ほどき六曲。さくら。ほたる。江戶紫弓八幡。秋の七草。八千代獅子。六段前歌。六段の調。夕顏。住吉。椿づくし。千鳥の曲。雲井六段。吾妻獅子越後獅子。都の春。松竹梅。

（山田流第貳編）喜撰（小野の山）早春。子の日遊。春の宮。ほとゝぎす。松づくし。みだれ。江の島。地久節。八段。菊水。櫻狩。那須野。松風。熊野。小督の曲。

（山田流外曲第參編）端歌新所車。端歌春雨。端歌夕ぐれ。長唄汐汲。長唄老松。長歌安宅。長唄鶴龜。長歌越後獅子長唄勸進帳

◉以下續々發行す　（尙ほ最近發行譜の目錄御希望者は郵券參錢封入申込まれよ）

尺三附錄ノ五

露光量違いの為重複撮影

◎生田流 分本もの目錄

（此の分本ものには各歌の節を一々くはしく記入してありますから全く正確に獨習する事が出來ます、尚ほ又各地の異なりたる手を『此所はこんなにひく人もある』と云ふ樣に他の手をも對照說明してありますから實に理想的です。

●郵券代用差支なし（但二割增とす）

△一冊參拾錢の部（送料二錢）

●門松と高砂と來の葉●鶴の聲と黑髮●八千代獅子●夕顏●難波獅子●雪●夕空●筆の跡●瀧づくし●雪景色●松上の鶴

△一冊四拾錢の部（送料四錢）

●萬歲（京都流及び大阪流）●金剛石及び琴曲かるた●六段（外に手ほどき六曲及び各調子の合せ方等くわしき說明書附き）●御製の曲（替手附き）●水は器●新高砂●巖上の松●凱旋ラッパの曲●千鳥の曲（替手附き）●大內山（前彈チフシ）●みだれ●末の契●雲井六段●中空六段●乃木大將武士の鑑（替手附き）●八段●竹生島●まゝの川●新巢龍●新雪月花●深夜の月●操鑑●最中の月●若菜の曲●雲の峰●相生の曲●御製燕の曲●金婚式●御園の松●梅の月●新道成寺●千代の榮●けしの花●歌戀慕●紅葉の曲●菊水●垣隣り●椿づくし●揖枕●新松づくし●茶の湯音頭●四季の眺●磯千鳥●春の曲●夏の曲●秋の曲●冬の曲●越後獅子●ほどゝぎす●御國の譽●里の曉●銀世界●雲雀の曲●稚兒櫻●千代田の調●七草と雛の鶯●夏夜の曲●淸三首の曲●新玉の曲●松の榮●三の景色●天津日嗣の曲●春の聲●武士の妻●松の曲●袖の露と小籬の戶●瀧の曲

△一冊五拾錢の部（送料四錢）

●尺八吹奏者は尺八樂發展の爲且又、尺八音譜と琴曲樂譜この統一を計る爲必ず此曲琴譜を彈琴者に御推薦を乞ふ

●茶の湯音頭●四季の眺●磯千鳥●春の曲●夏の曲●秋の曲●冬の曲●越後獅子●ほどゝぎす●御國の譽●里の曉●銀世界●雲雀の曲●稚兒櫻●千代田の調●七草と雛の鶯●夏夜の曲●淸三首の曲●新玉の曲●松の榮●三の景色●天津日嗣の曲●春の聲●武士の妻●松の曲●袖の露と小籬の戶●瀧の曲

△一冊六拾錢の部（送料四錢）

●今小町●松竹梅●住吉詣（段合せ色分け對照）●あづま獅子●秋の言の葉●摘草●玉の臺●西行櫻●楓の花●狹むしろ●船の夢●若菜●楓の花●新曲松風●古曲松風●鶴龜●名所土產●五段砧●小督の曲●雲井明治松竹梅●明治松竹梅

△一冊七拾錢の部（送料四錢）

●嵯峨の秋●須磨の嵐●蟲の音●娘道成寺●星と花●櫻川●嵯峨の春

▲殘月▲萩の露▲宇治巡り▲夜々の星▲酒（笹の露）▲七小町▲御山獅子▲仙山▲翁▲櫻づくし▲新酒し▲玉川▲孤會（替手附）▲常盤の花▲四段砧▲雲井五段砧▲鐘卷道成寺

△一冊八拾錢の部（送料四錢）

▲八重衣▲鶴の巢籠▲青柳▲根曳の松▲秋風の曲▲劇曲阿古屋の琴責め及び劇曲朝顏日記琴唄▲あづさ

◎近刊豫告

以下の曲は毎月續々發行します（內は定價であります）○神樂初（四〇）○神樂（四〇）○かちどきの春（四〇）○鐵輪（四〇）○（三〇）○大和文（五〇）○玉椿○神香爐○菊の露○四ツの民○ゆかり月○七段○凱歌の曲○大和錦○融○（どほる）○三ツ山○松の壽○をらんだ萬歲○常世の曲○九段○雲井九段○替手八千代獅子○替手みだれ○替手八段○八島及同替手○かんたん及同替手○あつさ及同替手○葵の上及同替手○山姥及同替手○以上外肉續々發行す

293
264

大正三年六月二十日初版印刷
大正三年七月一日初版發行
大正十五年五月一日第七十五版印刷（非賣品）
大正十五年五月十日第七十五版發行

本書記載の音譜書式及說明方法等總て著者が著作權を有するを以て復製を許さず

此印ナキハ偽物ナリ

家庭

家庭なる文字は大正六年二月農商務省特許局より本會に專許されたる登錄商標に付き今後無斷使用を禁ず

本書は總て內務大臣より著作權確定濟に付本書及本書の謠進方法形式等を模寫する不正溫ありし時は直に本會に御通知ありたし

著作兼發行者　福岡市中島町十番地　伊藤順子
印刷者　福岡市外千代町奏學通二五　田口茂
發行所（本部）　福岡市中島町十番地　大日本家庭音樂會本部　振替口座福岡五五〇〇番
東京支部　東京市神田須田町壹番地　大日本家庭音樂會東京支部　振替口座東京二七八〇〇番
大阪支部　大阪市東區心齊橋筋（南久太郎町四丁目角）　大日本家庭音樂會大阪支部　振替口座大阪六一七七番
廣嶋支部　廣島市本通リ新天地　大日本家庭音樂會廣嶋支部　振替口座大阪五六八八番
下關支部　下ノ關驛前ミツワ通　大日本家庭音樂會下關支部
代理部　福岡市中島町七十番地　音樂商社　振替口座福岡一一〇番
取次所　神戶市下山手通四丁目　中村正義特許辨理士事務所　振替大阪二七四五四番
取次所　大阪市南區瓜町四丁目　服部文貴堂
取次所　福岡市東中洲　書肆　株式會社　積文館　振替口座福岡八一番

露光量違いの為重複撮影

293
264

◎流生田 分本もの目錄

（此の分本ものには各歌の節を一々くはしく記入してありますから全く正確に獨習する事が出來ます、尚ほ又各地の異なりたる手を『此所はこんなにひく人もある』と云ふ樣に他の手をも對照說明してありますから實に理想的です。

○郵券代用差支なし（但二割增とす）

△一冊參拾錢の部（送料二錢）

●門松と高砂と榮の葉●鶴の聲と黑髮●八千代獅子●夕顏●難波獅子●雪●夕空●筆の跡●瀧づくし●雪景色●松上の鶴

△一冊四拾錢の部（送料四錢）

●萬歲（京都流及び大阪流）●金剛石及び琴曲かるた●六段（外に手はどき六曲及び各調子の合せ方等くわしき說明書附き）●御製の曲（替手附き）●水は器●新高砂●巖上の松●凱旋ラッパの曲●千鳥の曲（替手附き）●大內山（前彈チヲシ）●みだれ●末の契●雲井六段●中空六段●乃木大將武士の鑑（替手附き）●八段●竹生島●まゝの川●新巢籠●新雪月花●深夜の月●操鑑●最中の月●若榮の曲●雲の峰●相生の曲●御製燕の曲●金婚式●御園の松●梅の月●新道成寺●千代の榮●けしの花●歌戀慕●筑紫の海●おく山●あまづくし●紅葉の曲●菊水●垣隣り●椿づくし●揖枕●新松

△一冊五拾錢の部（送料四錢）

●茶の湯音頭●四季の眺●磯千鳥●春の曲●夏の曲●秋の曲●冬の曲●越後獅子●ほとゝぎす●御國の譽●里の曉●銀世界●雲雀の曲●稚兒櫻●千代田の調●七草と雜の鶯●夏夜の曲●御三首の曲●松の榮●三の景色●天津日嗣の曲●新玉の曲●武士の妻●松の曲●袖の露と小簾の戶●瀧の曲●嵯峨の秋●須磨の嵐●蟲の音●娘道成寺●星と花●櫻川●嵯峨の春

△一冊六拾錢の部（送料四錢）

●今小町●松竹梅●住吉詣（段合せ色分け對照）●あづま獅子●秋の言の葉●摘草●玉の臺●西行櫻●楓の花●狹むしろ●船の夢●若榮●楓の花●新曲松風●古曲松風●鶴亀●名所土產●五段砧●小督の曲●雲井明治松竹梅●明治松竹梅

△一冊七拾錢の部（送料四錢）

●殘月●萩の露●宇治巡り●夜々の星●酒（笹の露）●七小町●御山獅子●柚山●翁●櫻づくし●新酒し●玉川●孤會（替手附）●常盤の花●四段砧●雲井五段砧●鐘卷道成寺

△一冊八拾錢の部（送料四錢）

●八重衣●鶴の巢籠●青柳●根曳の松●祇風の曲●劇曲阿古屋の琴責め及び劇曲朝顏日記琴唄●あづさ

◎近豫刊告

以下の曲は毎月續々發行します（）內は定價であります

○神樂初（四〇）○神樂（四〇）○かちどきの春（四〇）○鐵輪（四〇）○（三〇）○大和文（五〇）○玉椿○大和錦○融○菊の露○四ツの民○ゆかり月○七段○凱歌の曲○大和錦○融○菊の露○四ツの民○ゆかり月○七段○凱歌の曲○稚兒櫻○千代田の調○七草と雜の鶯○夏夜の曲○御三首の曲○松の榮○三の景色○天津日嗣の曲○新玉の曲○松の榮○三の景色○天津日嗣の曲○をらんだ萬歲○常世の曲○九段○雲井九段○替手九段○替手八千代獅子○替手みだれ○替手八段○八島及同替手○かんたん及同替手○あつさ及同替手○蓼の上及同替手○山姥及同替手○以上の外尚續々發行す

◎尺八吹奏者は尺八樂發展の爲且又、尺八音譜と琴曲樂譜との統一を計る爲必ず此曲琴譜を彈琴者に御推薦を乞ふ

大正三年六月二十日初版印刷
大正三年七月一日初版發行
大正十五年五月一日第七十五版印刷（非賣品）
大正十五年五月十日第七十五版發行

本書記載の音譜書式及說明方法等總て著者が著作權を有するを以て復製を許さず

此印ナキハ僞物ナリ

家庭
家庭なる文字は大正六年二月農商務省特許局より本會に專許されたる登錄商標に付き今後無斷使用を禁ず

著作兼發行者　福岡市中島町十番地　伊藤順子
印刷者　福岡市外千代町六學通二五　田口茂
發行所（本部）　福岡市中島町十番地　大日本家庭音樂會本部　振替口座福岡五五〇〇番
東京支部　東京市神田須田町壹番地　大日本家庭音樂會東京支部　振替口座東京二七八〇〇番
大阪支部　大阪市東區心齋橋筋（南久太郎町四丁目角）　大日本家庭音樂會大阪支部　振替口座大阪六一七七番
廣嶋支部　廣島市本通ノ新天地　大日本家庭音樂會廣嶋支部　振替口座大阪五六八八番
下關支部　下ノ關驛前ミツワ通　大日本家庭音樂會下關支部
代理部　福岡市中島町七十番地　音樂商社　振替口座福岡一一〇番
取次所　神戶市下山手通四丁目　中村正義特許辨理士事務所　振替大阪二七四五四番
取次所　大阪市南區瓢町四丁目　服部文貴堂
取次所　福岡市東中洲　書肆（株式會社）積文館　振替口座福岡八一番

大書は總て內務大臣より著作權確定濟に付本書及本書の謄寫方法形式等を模寫する不正淵ありし時は直に本會に御通知ありたし

賜天覽

◎名手の作になりし尺八特賣◎

本會尺八講義錄に詳細說明しある如く尺八の製作は頗る六ケ敷ものにして或點以上は天才にあらざれば製作する事能はず。普通樂器店にある尺八は發音及び調律共不完全。殆んど火吹竹の少し進化したぐらいのもの多し。然るに本會樂器部特賣の左の品は。尺八製作に就て辱けなくも天覽の光榮に浴せし近代の天才的名手秋月師の作になりしものにして調律正確頗る美音を發す　只本會が多數取引を條件として格外の割引を受け。之を各位に頒つ。希望者は本會樂器部に申込みあらば責任を以て良品を撰定送附すべし

◆秋月師作尺八定價表◆

送料（荷造送料內地は四拾錢、特製は四拾五錢　朝鮮滿洲臺灣は七拾五錢）

◆本會の尺八は總て責任を明かにする爲製作者の刻印を附す

第一號	壹圓	第七號	一圓五拾錢
第二號	壹圓五拾錢	第一號より第七號迄は一尺六寸乃至二尺とす。第八號より正一尺八寸及九寸ケ標準とす	
第三號	貳圓		
第四號	貳圓五拾錢	第八號	八圓
第五號	參圓	第九號	九圓
第六號	四圓	第十號	拾圓

音律不正確の尺八にて吹きなれるときは不正の音律を耳に慣らし。それが習慣となり、正確なる音律が反て不正確の如き感じを抱く樣になります、されば初歩の時代より音律正確なる品を求めねばなりませぬ

特製第一號	拾貳圓	特製第六號	參拾圓
特製第二號	拾五圓	特製第七號	參拾五圓
特製第三號	拾八圓	特製第八號	四拾圓
特製第四號	貳拾圓	特製第九號	四拾五圓
特製第五號	貳拾五圓	特製第十號	五拾圓

これ以上に御希望に應じ種々調製しますが目下參百五拾圓の品迄あります

◉尺八の長さは一尺八寸を標準とするを以て其他の長さは特に指定して下さい。それから中繼は破損し易いと心配する人がありますが、本會製作の中繼はなか〳〵丈夫に出來て居りますので決してそんな心配はありません、中繼は携帶に至極便利でなか〳〵よいです、それで普製八號以上は中繼を御送しますされば延竹御希望の場合は一應有無の御照會を願ひます

（備考）一般の人はこんな高價な尺八がどうしてあるだらう。純金の裝飾でもしてあるのかと不思議に思ひますが。然し決してそんなわけではありません。實に尺八製作家は何千本何萬本の內より漸く一本の名竹を見出し且つそれが美音を發するやう完全に仕上げるには一ケ年も二ケ年も種々苦心して。製作するのであります、これらは此道に入つた人でなければなか〳〵分りません

終